



Power Manager

デプロイメント・ガイド

更新: 2015 年 11 月

注：本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、63 ページの 付録 B『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

第 10 版 (2015 年 11 月)

© Copyright Lenovo 2008, 2015.

制限付き権利に関する通知: データまたはソフトウェアが米国一般調達局 (GSA: General Services Administration) 契約に準じて提供される場合、使用、複製、または開示は契約番号 GS-35F-05925 に規定された制限に従うものとします。

目次

序文	iii
第 1 章 . 概要	1
機能	1
第 2 章 . インストール	3
Net Framework への依存	3
インストールの考慮事項	3
Power Manager のインストール	3
第 3 章 . Active Directory と ADM/ADMX ファイルの使用	5
管理用テンプレートの追加	5
一般設定	7
電源プラン (電源設定) デプロイメント	9
共通省電力設定	33
バッテリー保守	42
電源スケジュール・デプロイメント	43

第 4 章 . 電源プラン・デプロイ機能に よる電源プランのデプロイ	53
電源プラン・デプロイの概要	53
電源プランのエクスポート	53
電源プランのデプロイおよび管理	53
サンプル・スクリプト	56
電源プラン・デプロイのサンプル	57
電源プラン・デプロイ機能に関するヒント	58
付録 A. Windows XP クライアント・コ ンピューター上の管理者以外のグルー プまたはユーザー用の電源設定のデプ ロイ	61
付録 B. 特記事項	63
商標	63

序文

本ガイドは、IT 管理者または、組織内のコンピューターに Power Manager プログラム (以降、Power Manager と呼びます) をデプロイする役割を持った人を対象にしています。本ガイドの目的は、1 台以上のコンピューターに Power Manager をインストールする際に必要となる情報、および Active Directory® の管理に関連する一般的な管理タスクに関する情報を提供することです。組織全体にわたってコンピューターに電源管理方針を実装および実施することで、大幅な省電力を実現できます。

ThinkVantage® テクノロジーは、IT の専門家が遭遇する固有の問題に対応するために開発されました。本デプロイメント・ガイドには、Power Manager を使用するための説明と解決策が記載されています。ご提案またはコメントは、Lenovo® 認定担当者にご連絡ください。総所有コスト (TCO) の低減に役立つ製品の詳細情報や、本ガイドの定期的な更新を確認するには、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.lenovo.com/thinkvantage>

第 1 章 概要

Power Manager を使用すると、スライダー・コントロールまたは電源プランによって電力設定を調整し、システム・パフォーマンスと省電力の最高のバランスを実現できます。

Power Manager にはさまざまな省電力機能が搭載されており、2 つの基本モード (ベーシックおよびアドバンス) を通じて提供されます。ベーシック・モードは、Power Manager を初めて起動するときのデフォルトとして設定されているモードです。省電力のレベルは、スライダーを使用するだけで (電源プランは使用せずに) 指定できます。アドバンス・モードでは、特定の省電力要件を満たすように、電源プランおよび Power Manager のすべての機能を構成することができます。Power Manager によってバッテリー情報が画面に表示されるため、バッテリーの状況をモニターできます。

コンピューターの電源管理を行うことで、電力とコストを節約できます。IT 管理者が組織全体にわたってコンピューターに電源管理方針を実施すれば、非常に大きな省エネルギーになります。Power Manager はデフォルトで、エネルギーを効率的に使用するためのさまざまな機能を備えています。また、Power Manager には電源管理の設定を調整するためのオプションが非常に多く用意されており、IT 管理者はこれを使用することで組織全体のエネルギー効率を最適化できます。

注：Power Manager には 2 つの異なるバージョンがあります。1 つは Microsoft® Windows® XP オペレーティング・システム用で、もう 1 つは Microsoft Windows Vista® および Microsoft Windows 7 オペレーティング・システム用です。Windows Vista および Windows 7 用のバージョンでは、『電源プラン』という用語が使用されます。Windows XP 用のバージョンでは、『電源設定』という用語が使用されます。本書では、それらを区別せず両方をカバーして『電源プラン』という用語を使用します。

機能

Power Manager には次のような機能があります。

- **コンピューターのパフォーマンスと省電力のバランス**

Power Manager にはスライダーがあり、使用する電源レベルを素早く簡単に設定できます。スライダーを動かすことで、中央演算処理装置 (CPU) の速度とコンピューター・ディスプレイの輝度を制御できます。スライダーを左側の『**マックス・パフォーマンス**』の方向に移動させると、CPU 速度が向上し、コンピューター・ディスプレイの輝度は上がりますが、バッテリー電力の消費量が増加します。スライダーを右側の『**マックス・バッテリー・ライフ**』の方向に移動させると、CPU 速度とコンピューター・ディスプレイの輝度は制限されますが、バッテリー駆動時間は長くなります。

スライダーを左端に移動させると、省電力設定は、事前定義された『**マックス・パフォーマンス**』電源プランになります。スライダーを右端に移動させると、省電力設定は、事前定義された『**マックス・バッテリー・ライフ**』電源プランになります。

- **電源プランの表示、作成、削除、および切り替え**

電源プランとはハードウェアおよびシステムの設定の集合のことで、コンピューターの使用方法を管理することで電力を節約します。Power Manager の電源プランには、Windows® の電源プランよりも多くの省電力設定があります。『**電源プラン**』タブで、定義済みの電源プラン (『**マックス・パフォーマンス**』、『**タイマー禁止 (ディスプレイ)**』、『**ビデオの再生**』、『**マックス・バッテリー・ライフ**』、『**エネルギー・セーバー**』 (一部のシステムでは『**ThinkPad® デフォルト**』または『**ENERGY STAR**』と呼ばれる)、および『**パワー源最適化**』) の特定の設定を確認できます。これらの定義済みの電源プランは、大半のユーザーの要件を満たすように設計されたものです。事前定義された電源プランがユーザーの要件に合わない場合には、『**電源プランの作成**』ウィザードを使用して、ユーザー独自のカスタム電源プランを作成します。タスクバー上の『**バッテリー・ゲージ**』アイコンをクリックし、スライダーを使用して、事前定義された電源プランにするか、または F3 + Fn キーを押して『**電源プランの選択**』メニューから電源プランを選択することにより、電源プランを簡単に切り替えることができます。

- **バッテリー情報を表示する**

Power Manager では、残り時間、残り容量、充電および放電状況、サイクル・カウントなど、バッテリー情報および一般的なバッテリー状況を表示します。バッテリー・ヘルス・インジケータは、バッテリー・ヘルス状態を次の3色で示します。すなわち、緑(良好状態)、黄色(正常状態)、および赤色(不良状態)です。バッテリーにエラーが発生したときには、エラー・メッセージまたはバレーン・メッセージが通知領域に表示されます。

- **バッテリー寿命を最大化する**

コンピューターを主に AC 電源アダプターに接続して使用し、バッテリー電源はそれほど使用しない場合は、充電のしきい値を変更してバッテリー寿命を延ばすことができます。これによって、充電が開始されるまでのバッテリー放電の割合が低くなり、充電のサイクル数を減らすことができます。バッテリー充電のしきい値は、『**バッテリー**』タブで変更できます。

また、最大充電の値を 100% 未満に設定することもできます。フル充電よりも少なく充電してバッテリーを保管することが推奨されるため、このオプションは、それほど使用しないバッテリーの寿命を延長するのに役立ちます。

- **リモートで Power Manager を構成し、電源プランをデプロイする**

Power Manager を使うことで、IT 管理者は Power Manager を構成し、Active Directory により電源プランをデプロイできます。IT 管理者は、クライアント・コンピューターのアクティブな電源プランの選択、ユーザーによる電源プランの切り替えの禁止、特定の電源プランの選択、または電源プランの作成を実行できます。例えば、IT 管理者が『**マックス・パフォーマンス**』電源プランを無効にすると、ユーザーはその電源プランを選択できなくなります。

また、IT 管理者は、『一般設定』ポリシー、『電源プラン(電源設定)デプロイメント』ポリシー、『共通省電力設定』ポリシー、および『バッテリー保守』ポリシーを構成できます。

第2章 インストール

ここでは、Power Manager のインストール手順について説明します。

Net Framework への依存

Power Manager は、Microsoft .NET Framework 3.0 以降を必要とします。Power Manager をインストールする前に、.NET Framework をインストールする必要があります。.NET Framework の互換性のあるバージョンは、以下の Microsoft Web サイトからダウンロードできます。

<http://msdn.microsoft.com/en-us/netframework/default.aspx>

注：Windows 2000 オペレーティング・システムで Power Manager を使用するには、Power Manager バージョン 1.48 をインストールしてください。

インストールの考慮事項

Power Manager のさまざまな機能は、ハードウェア、BIOS、ドライバ、その他の ThinkVantage テクノロジー (TVT) に依存しています。クライアント・コンピュータでサポートされていない機能は、Power Manager 上で非表示になります。Power Manager のすべての機能を有効にするために、次のソフトウェアの最新バージョンをインストールすることを推奨します。

- BIOS 更新
- ThinkPad 省電力ドライバ
- Hotkey ドライバ
- Access Connections™

Power Manager のインストール

ユーザーの対話なしで Power Manager をインストールするには、次の処理を実行します。

1. Windows XP、Windows Vista、または Windows 7 オペレーティング・システムを起動し、管理者特権を持つユーザーでログインします。
2. Power Manager のソフトウェア・パッケージをハードディスク・ドライブに解凍します。次に例を示します。
`C:\¥Drivers¥Vista¥PWRMGRV`
3. オペレーティング・システムに応じて、以下のいずれかを実行します。
 - Windows XP オペレーティング・システム・ユーザーの場合『**スタート**』→『**ファイル名を指定して実行**』の順にクリックし、『**名前**』ボックスに『**cmd**』と入力して、コマンド・プロンプト・ウィンドウを開きます。
 - Windows Vista または Windows 7 オペレーティング・システム・ユーザーの場合『**スタート**』をクリックし、『**検索の開始**』ボックスに『**cmd**』と入力してから『**管理者として実行**』を選択し、コマンド・プロンプト・ウィンドウを開きます。
4. インストール・ログをデフォルト・パスに出力するように指定して Power Manager を自動インストールするには、次のコマンド・ラインを使用します。
`¥setup.exe -S -SMS`

Power Manager を対話式にインストールするには、次のようにします。

1. Windows XP、Windows Vista、または Windows 7 オペレーティング・システムを起動し、管理者特権を持つユーザーでログインします。

2. Power Manager ソフトウェア・パッケージをダブルクリックします。『インストールの準備ができました』ウィンドウが開きます。
3. 『導入先選択』ウィンドウで、『**次へ**』をクリックします。別のフォルダーを選択したい場合は、『**参照**』をクリックします。
4. 『インストールの準備完了』ウィンドウで、『**インストール**』をクリックします。すべての必要なファイルがステップ3で選択されたフォルダーに取り出されます。
5. 『**ThinkVantage Power Manager を今すぐインストールする**』オプションを選択していることを確認し、『**終了**』をクリックします。
6. 画面に表示される指示に従って、インストールを完了しコンピューターを再起動します。

注：Power Manager には2つの異なるバージョンがあります。1つは Windows XP オペレーティング・システム用で、もう1つは Windows Vista および Windows 7 オペレーティング・システム用です。ご使用のコンピューターに Power Manager をインストールするときは、Power Manager のバージョンと、ご使用のオペレーティング・システムのバージョンを合わせてください。Windows Vista および Windows 7 用に設計された Power Manager は、Windows XP オペレーティング・システムでは正しく機能しない可能性があります。また、その逆も同様です。

第 3 章 Active Directory と ADM/ADMX ファイルの使用

Active Directory は、コンピューター、グループ、エンド・ユーザー、ドメイン、セキュリティ・ポリシー、あらゆる種類のユーザー定義オブジェクトを管理するメカニズムを管理者に提供します。このメカニズムのことを、グループ・ポリシーと管理用テンプレート (ADM または ADMX) ファイルといいます。IT 管理者は、グループ・ポリシーおよび ADM/ADMX ファイルを使用して、ドメイン内のコンピューターまたはユーザーに適用する設定を定義します。

Lenovo の Windows XP、Windows Vista、および Windows 7 クライアント・コンピューター用 Power Manager の ADM/ADMX ファイルには、次の 6 つのポリシー設定カテゴリがあります。

- 一般設定
- 電源プラン (電源設定) デプロイメント
- 共通省電力設定
- バッテリー保守
- 電源スケジュール・デプロイメント

管理用テンプレートの追加

Lenovo では、時間と労力を節約するように設計された管理用テンプレート・ファイル (Windows XP オペレーティング・システム用の『PWMGPO.ADM』と『PWMGPO.ADMX』、Windows Vista および Windows 7 オペレーティング・システム用の『PMVGPO.ADM』と『PMVGPO.ADMX』) を提供しています。このファイルをグループ・ポリシー・エディターとともに使用して、Power Manager のポリシーを設定します。これらの ADM ファイルまたは ADMX ファイルは、次の Lenovo サポート Web サイトからダウンロードできます。

<https://support.lenovo.com/us/en/documents/ht037099>

Active Directory の環境に応じて、IT 管理者は ADM または ADMX ファイルを選択し、そのファイルをグループ・ポリシー・エディターに追加します。

Power Manager ADM ファイルをグループ・ポリシー・エディターに追加するには、次の処理を実行します。

1. Active Directory が稼働中のコンピューターで、**『スタート』 → 『ファイル名を指定して実行』**の順にクリックし、gpedit.mscと入力します。『グループポリシーエディター』ウィンドウが開きます。
2. **『コンピュータの構成』**で、**『管理用テンプレート』**を右クリックします。
3. **『テンプレートの追加と削除』**をクリックすると、**『テンプレートの追加と削除』**ウィンドウが開きます。
4. Windows XP クライアント・コンピューターの場合は、**『追加』**をクリックし、PWMGPO.ADM ファイルを選択します。
5. Windows Vista および Windows 7 クライアント・コンピューターの場合は、**『追加』**をクリックし、PMVGPO.ADM ファイルを選択します。
6. **『閉じる』**をクリックして、**『テンプレートの追加と削除』**ウィンドウを閉じます。
7. 必ず、次の処理を実行して、ADM ファイルがグループ・ポリシー・エディターに追加されたことを確認してください。
 - Windows XP オペレーティング・システムの場合
 - a. **『コンピュータの構成』**で、**『管理用テンプレート』**を展開します。**『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』**という新しい項目が表示されます。

- b. 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』を展開します。『Power Manager』というサブ項目が表示されます。
- c. 『ユーザーの構成』で、『管理用テンプレート』を展開します。『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』という新しい項目が表示されます。
- d. 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』を展開します。『Power Manager』というサブ項目が表示されます。
- Windows Vista および Windows 7 オペレーティング・システムの場合
 - a. 『コンピュータの構成』で、『管理用テンプレート』を展開して『従来の管理用テンプレート』までナビゲートします。『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』という新しい項目が表示されます。
 - b. 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』を展開します。『Vista/7 用 Power Manager』というサブ項目が表示されます。
 - c. 『ユーザーの構成』で、『管理用テンプレート』を展開して『従来の管理用テンプレート』までナビゲートします。『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』という新しい項目が表示されます。
 - d. 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』を展開します。『Vista/7 用 Power Manager』というサブ項目が表示されます。

Power Manager ADMX ファイルをグループ・ポリシー・エディターに追加するには、次の処理を行います。

1. ADMX をサポートする Active Directory を実行しているコンピュータで、admx_tp_xp.zip ファイルおよび admx_tp_vista_7.zip ファイルをローカル・フォルダーに展開します。
2. PWMGPO.admx ファイルと PMVGPO.admx ファイルを C:\Windows\PolicyDefinitions フォルダーにコピーします。
3. PWMGPO.adml ファイルと PMVGPO.adml ファイルを C:\Windows\PolicyDefinitions\en-US フォルダーにコピーします。
4. 『スタート』 → 『実行』の順にクリックし、『gpedit.msc』と入力します。『グループポリシーエディター』ウィンドウが開きます。『ローカルグループポリシーエディタ』ウィンドウには、C:\Windows\PolicyDefinitions ディレクトリーに保存されているすべての ADMX ファイルが自動的に読み込まれます。
5. 必ず、次の処理を実行して、ADMX ファイルがグループ・ポリシー・エディターに追加されたことを確認してください。
 - a. 『コンピュータの構成』で、『管理用テンプレート』を展開します。『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』という新しい項目が表示されます。
 - b. 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』を展開します。『Power Manager』および『Vista/7 用 Power Manager』というサブ項目が表示されます。
 - c. 『ユーザーの構成』で、『管理用テンプレート』を展開します。『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』という新しい項目が表示されます。
 - d. 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』を展開します。『Power Manager』および『Vista/7 用 Power Manager』というサブ項目が表示されます。

注：

1. 『Power Manager』構成項目にあるポリシー設定は、Windows XP クライアント・コンピュータ用です。これらのポリシー設定は、Windows Vista および Windows 7 クライアント・コンピュータには影響しません。
2. 『Vista/7 用 Power Manager』構成項目にあるポリシー設定は、Windows Vista および Windows 7 クライアント・コンピュータ用です。これらのポリシー設定は、Windows XP クライアント・コンピュータには影響しません。

一般設定

IT 管理者は、一般設定ポリシーを使用してアクティブ電源プランの選択などの一般的な設定を構成できます。

『General Setting』ポリシーを構成するには、次のようにします。

- Windows XP クライアント・コンピュータの場合 (ADM および ADMX ファイル)
『コンピュータの構成』で、『管理用テンプレート』 → 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』 → 『Power Manager』 → 『一般設定』の順にクリックします。
- Windows Vista または Windows 7 クライアント・コンピュータの場合 (ADM ファイル)
『コンピュータの構成』で、『管理用テンプレート』 → 『従来の管理用テンプレート』 → 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』 → 『Vista/7 用 Power Manager』 → 『一般設定』の順にクリックします。
- Windows Vista または Windows 7 クライアント・コンピュータの場合 (ADMX ファイル)
『コンピュータの構成』で、『管理用テンプレート』 → 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』 → 『Vista/7 用 Power Manager』 → 『一般設定』の順にクリックします。

次の表に、各ポリシー設定に関する詳細情報を示します。

表 1. 一般設定

ポリシー設定	説明
クライアントによる電源プランの切り替えを許可しない	クライアント・コンピュータでの電源プランの切り替えを許可するかどうかを指定します。 このポリシー設定が有効になっている状態でユーザーが電源プランを変更すると、Power Manager によって現行の電源プランがオリジナルの電源プランに自動的に戻されます。 注： - このポリシーは、ユーザーによるアクティブ電源プランの省電力設定の変更を禁止しません。このポリシーが有効になっていると、ユーザーは Windows Vista または Windows 7 オペレーティング・システム上でベーシック・モードでスライダーを動かして、アクティブ電源プランの省電力設定を変更できます。 - ただし、オリジナルの電源プランが『マックス・パフォーマンス』または『マックス・バッテリー・ライフ』に設定されている場合、ユーザーはスライダーを使用して電源プランの省電力設定を変更することはできません。 - オリジナルの電源プランが Power Manager 所有のものではない場合、ユーザーは他の電源プランに切り替えることができます。 このポリシーが有効になっている場合、ユーザーはアクティブ電源プランを変更することができます。また、基本モードでスライダー・コントロールを移動することもできます。
クライアントによる新しい電源プランの作成を許可しない	クライアント・コンピュータの Power Manager での新しい電源プランの作成を許可するかどうかを指定します。

表 1. 一般設定 (続き)

ポリシー設定	説明
	このポリシー設定を有効にすると、Power Manager のメイン・ユーザー・インターフェースに表示されている電源プラン作成用の『新規作成』ボタンが使用不可になります。ただし、Power Manager 以外で電源プランを作成することはできます。例えば、『コントロールパネル』の『電源オプション』ツールを使用して電源プランを作成できます。
クライアントによる特定の電源プランの選択を許可しない	Power Manager が所有する特定の電源プランのクライアント・コンピューターでの選択を許可するかどうかを指定します。 このポリシー設定を有効にすると、電源プラン名を入力する必要があります。無効な名前の電源プランを選択すると、現行の電源プランが別の定義済み電源プランに切り替えられます。 注： - Power Manager は、次の順番で使用可能な電源プランを検索します。 - Power Manager は『エネルギー・セーバー』の電源プランを検索します。これは、一部のシステムでは『ThinkPad デフォルト』または『ENERGY STAR』と呼ばれます。 - 上記の検索に失敗するか、電源プランが無効な場合、Power Manager は『パワー源最適化』電源プランを検索します。 - 上記の検索に失敗するか、電源プランが無効な場合、Power Manager は『マックス・バッテリー・ライフ』電源プランを検索します。 - 指定できるのは Power Manager に表示されている電源プランのみで、Windows のデフォルトの電源プランは指定できません。
アクティブ電源プランを選択する	Power Manager が所有する電源プランの名前を指定し、それをクライアント・コンピューターでアクティブにします。 注： - 指定した電源プラン名がクライアント・コンピューター内に存在する必要があります。 - このポリシー設定を有効にすると、電源プラン名を入力する必要があります。 Power Manager は起動中に、このポリシーで指定されている電源プランを適用します。このポリシーでアクティブ電源プランを指定しても、Power Manager の起動後にアクティブ電源プランを変更できます。

表 1. 一般設定 (続き)

ポリシー設定	説明
インターネット・アクセスを非表示にする	インターネット・アクセスを非表示にするかどうかを指定します。 このポリシー設定を有効にすると、Power Manager のすべての Web リンクが非表示になります。また、Windows の電源オプションの『バッテリーの購入リンク』は、すべてのプルダウン・メニューで『削除』を選択することで削除されます。 注：このポリシーで『バッテリーの購入リンク』を削除すると、このポリシーを無効にしてもこのリンクは表示されません。
電源ロギング	AC/DC ワット数のログ出力設定を指定します。 このポリシー設定を有効にする場合、ログ出力間隔(分)とログ・クリアランス間隔(日)の値(数字)を設定する必要があります。 ログ出力ファイル名は PWMLDLOG.INI です。ログ出力ファイルは、Power Manager のインストール・フォルダー下に作成されます。

電源プラン (電源設定) デプロイメント

IT 管理者は、『Power Plan Deployments』構成項目のポリシー設定を使用して、カスタム電源プランを作成し、それらの電源プランをデプロイできます。IT 管理者は、この構成項目ですべてのポリシーを構成する必要があります。『Power Plan Deployments』構成項目のポリシー設定を使用してクライアント・コンピュータ内の既存の電源プランを編集することはできません。電源プランをデプロイすると、IT 管理者はサーバー・サイドから電源プランを編集できなくなります。新しい電源プランをデプロイするには、IT 管理者は別の電源プラン名で電源プランを構成する必要があります。

『Power Plan (Scheme) Deployments』ポリシーを構成するには、次のようにします。

- Windows XP クライアント・コンピュータの場合 (ADM および ADMX ファイル)
『コンピューターの構成』で、『管理用テンプレート』 → 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』 → 『Power Manager』 → 『電源プラン (電源設定) デプロイメント』の順にクリックします。
- Windows Vista または Windows 7 クライアント・コンピュータの場合 (ADM ファイル)
『コンピューターの構成』で、『管理用テンプレート』 → 『従来の管理用テンプレート』 → 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』 → 『Vista/7 用 Power Manager』 → 『電源プラン (電源設定) デプロイメント』の順にクリックします。
- Windows Vista または Windows 7 クライアント・コンピュータの場合 (ADMX ファイル)
『コンピューターの構成』で、『管理用テンプレート』 → 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』 → 『Vista/7 用 Power Manager』 → 『電源プラン (電源設定) デプロイメント』の順にクリックします。

次の表に、各ポリシー設定に関する詳細情報を示します。この表で、(AC) は AC 電源アダプターを接続したクライアント・コンピュータ用のポリシー設定を、(DC) はバッテリー電源を使用するクライアント・コンピュータ用のポリシー設定を表します。

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント

ポリシー設定	説明
プラン名	クライアント・コンピューターにデプロイする電源プランの名前を指定します。 このポリシー設定を有効にすると、電源プラン名を入力する必要があります。電源プラン名の長さは、1 バイト文字の場合、最大 32 文字です。2 バイト文字の場合は、最大 16 文字です。 注：電源プランをデプロイすると、サーバー・サイドから電源プランを編集できなくなります。電源プラン名を変更する場合は、電源プランを新しい電源プランとしてクライアント・コンピューターにデプロイします。
最大 CPU 速度 (AC)	CPU の最大速度を指定します。 指定できる最大速度は次のとおりです。 • 最高 • 最適 • 低 • 最低
最大 CPU 速度 (DC)	CPU の最大速度を指定します。 指定できる最大速度は次のとおりです。 • 最高 • 最適 • 低 • 最低
システム・パフォーマンス (AC)	システム・パフォーマンス・タイプを指定します。 システム・パフォーマンス・タイプの可能な値は、次のとおりです。 • 最大ターボ • ターボ • バランス • 低 注：システム・パフォーマンスは、『最大 CPU 速度』設定、『Intel グラフィックス電源プラン』設定、およびターボの状態に影響します。ユーザーがシステム・パフォーマンス・タイプを定義すると、『最大 CPU 速度』設定と『Intel グラフィックス電源プラン』設定は上書きされます。

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
システム・パフォーマンス (DC)	システム・パフォーマンス・タイプを指定します。 システム・パフォーマンス・タイプの可能な値は、次のとおりです。 • 最大ターボ • ターボ • バランス • 低 注：システム・パフォーマンスは、『最大 CPU 速度』設定、『Intel グラフィックス電源プラン』設定、およびターボの状態に影響します。ユーザーがシステム・パフォーマンス・タイプを定義すると、『最大 CPU 速度』設定と『Intel グラフィックス電源プラン』設定は上書きされます。
CPU ディーパー・スリープ (AC)	CPU がディーパー・スリープ状態に入れるようにするかどうかを指定します。このポリシー設定を有効にすると、CPU はディーパー・スリープ状態に入ります。
CPU ディーパー・スリープ (DC)	CPU がディーパー・スリープ状態に入れるようにするかどうかを指定します。このポリシー設定を有効にすると、CPU はディーパー・スリープ状態に入ります。
ファン制御の最適化 (AC)	ファン制御モードを指定します。 次のファン制御モードがあります。 • パフォーマンスの最大化 • すべてのパラメーターのバランス • ノイズの動的削減 注：『ノイズの動的削減』オプションは、『最大 CPU 速度 (AC)』オプションが『低』または『最低』に設定されている場合には、有効になりません。
ファン制御の最適化 (DC)	ファン制御モードを指定します。 次のファン制御モードがあります。 • パフォーマンスの最大化 • すべてのパラメーターのバランス • ノイズの動的削減 注：『ノイズの動的削減』オプションは、『最大 CPU 速度 (AC)』オプションが『低』または『最低』に設定されている場合には、有効になりません。
ディスプレイ輝度 16 (AC)	クライアント・コンピューターのディスプレイの輝度レベルを 16 個のレベルで指定します。輝度レベルを上げると、ディスプレイが明るくなります。
ディスプレイ輝度 16 (DC)	クライアント・コンピューターのディスプレイの輝度レベルを 16 個のレベルで指定します。輝度レベルを上げると、ディスプレイが明るくなります。

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
ディスプレイ輝度 8 (AC)	クライアント・コンピューターのディスプレイの輝度レベルを 8 個のレベルで指定します。
ディスプレイ輝度 8 (DC)	クライアント・コンピューターのディスプレイの輝度レベルを 8 個のレベルで指定します。
スウィッチャブル・グラフィックス (AC)	NVIDIA スウィッチャブル・グラフィックスのグラフィック・モードを指定します。 指定できるグラフィック・モードは次のとおりです。 ● 省エネルギー ● ハイパフォーマンス 注： 1. このポリシー設定を有効にするには、グラフィック・モードを選択しなければなりません。 2. この設定は Windows XP クライアント・コンピューターではサポートされていません。
スウィッチャブル・グラフィックス (DC)	NVIDIA スウィッチャブル・グラフィックスのグラフィック・モードを指定します。 指定できるグラフィック・モードは次のとおりです。 ● 省エネルギー ● ハイパフォーマンス 注： 1. このポリシー設定を有効にするには、グラフィック・モードを選択しなければなりません。 2. この設定は Windows XP クライアント・コンピューターではサポートされていません。
Intel グラフィックス電源プラン (AC)	Intel グラフィックス・サブシステムの電源プランを指定します。 指定できる電源プランは次のとおりです。 ● マックス・バッテリー・ライフ ● 平衡型 ● マックス・パフォーマンス 注：このポリシー設定を有効にするには、電源プランを選択しなければなりません。

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
Intel グラフィックス電源プラン (DC)	Intel グラフィックス・サブシステムの電源プランを指定します。 指定できる電源プランは次のとおりです。 • マックス・バッテリー・ライフ • 平衡型 • マックス・パフォーマンス 注：このポリシー設定を有効にするには、電源プランを選択しなければなりません。
光学式ドライブ自動電源オフ (AC)	次の条件が満たされたときに、光学式ドライブの電源を自動でオフにするかどうかを指定します。 • システム始動後 10 分以内に CD または DVD が挿入されない。 • CD または DVD を取り外してから 10 分以内に再挿入されない。
光学式ドライブ自動電源オフ (DC)	次の条件が満たされたときに、光学式ドライブの電源を自動でオフにするかどうかを指定します。 • システム始動後 10 分以内に CD または DVD が挿入されない。 • CD または DVD を取り外してから 10 分以内に再挿入されない。
飛行機電源プラン (AC)	飛行機電源プラン機能を有効にするかどうかを指定します。 構成オプションは次のとおりです。 • 構成しない • 有効 • 無効 このポリシー設定を有効にすると、コンピューターはバッテリー充電率とシステム・パフォーマンスを制限して電力消費量を抑えます。この機能により、機内で電源機構を保護します。飛行機電源プランは、AC 電源アダプターが接続されているかどうかにかかわらず機能します。 このポリシー設定を有効にすると、タスクバーのバッテリー・ゲージ・アイコンの横に飛行機のアイコンが表示されます。Battery Stretch のアイコン、バッテリー・ゲージ・リセットのアイコン、ピーク電力スケジューラーのアイコンなど、別のシステム電源状況を示すアイコンが表示されている場合、飛行機のアイコンは表示されません。

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
飛行機電源プラン (DC)	飛行機電源プラン機能を有効にするかどうかを指定します。 構成オプションは次のとおりです。 • 構成しない • 有効 • 無効 このポリシー設定を有効にすると、コンピューターはバッテリー充電率とシステム・パフォーマンスを制限して電力消費量を抑えます。この機能により、機内で電源機構を保護します。飛行機電源プランは、AC 電源アダプターが接続されているかどうかにかかわらず機能します。 このポリシー設定を有効にすると、タスクバーのバッテリー・ゲージ・アイコンの横に飛行機のアイコンが表示されます。Battery Stretch のアイコン、バッテリー・ゲージ・リセットのアイコン、ピーク電力スケジューラーのアイコンなど、別のシステム電源状況を示すアイコンが表示されている場合、飛行機のアイコンは表示されません。
ディスプレイ輝度の低下 16 (DC)	時間と輝度レベルを指定します。非アクティブ状態がその時間より長く続いた場合にディスプレイの輝度を暗くします。指定した時間の後に『ディスプレイ輝度の低下 16』設定が有効になり、そのとき、ここで指定された輝度レベルになります。輝度レベルは、『ディスプレイ輝度 16』設定で指定した輝度レベルよりも低くする必要があります。この設定はクライアント・コンピューター用で、16 個の輝度レベルで指定します。 設定可能な時間は次のとおりです。 • 1 分 (Windows XP のみ) • 2 分 (Windows XP のみ) • 3 分 (Windows XP のみ) • 5 分 (Windows XP のみ) • 10 分 (Windows XP のみ) • 15 分 • 20 分 • 25 分 • 30 分 • 45 分 • なし 注：この設定は、AC モードおよび Windows 7 クライアント・コンピューターではサポートされていません。

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
ディスプレイ輝度の低下 8 (DC)	時間を指定します。非アクティブ状態がその時間より長く続いた場合にディスプレイの輝度を暗くします。指定した時間の後に『ディスプレイ輝度の低下 8』設定が有効になり、そのとき、ここで指定された輝度レベルになります。輝度レベルは、『ディスプレイ輝度 8』設定で指定した輝度レベルよりも低くする必要があります。この設定はクライアント・コンピューター用で、8 個の輝度レベルで指定します。 設定可能な時間は次のとおりです。 • 1 分 (Windows XP のみ) • 2 分 (Windows XP のみ) • 3 分 (Windows XP のみ) • 5 分 (Windows XP のみ) • 10 分 (Windows XP のみ) • 15 分 • 20 分 • 25 分 • 30 分 • 45 分 • なし 注：この設定は、AC モードおよび Windows 7 クライアント・コンピューターではサポートされていません。
画面の暗転 (AC)	時間と輝度レベルを指定します。非アクティブ状態がその時間より長く続いた場合に、Windows は自動的にディスプレイの輝度を暗転します。指定した時間の後に『Dim display』設定が有効になり、そのとき、ここで指定した輝度レベルになります。非アクティブの時間は、秒単位で指定できます。 注：この設定は Windows 7 クライアント・コンピューターでのみサポートされます。
画面の暗転 (DC)	時間と輝度レベルを指定します。非アクティブ状態がその時間より長く続いた場合に、Windows は自動的にディスプレイの輝度を暗転します。指定した時間の後に『Dim display』設定が有効になり、そのとき、ここで指定した輝度レベルになります。非アクティブの時間は、秒単位で指定できます。 注：この設定は Windows 7 クライアント・コンピューターでのみサポートされます。

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
ディスプレイ・リフレッシュ・レートの最小化 (DC)	時間を指定して、非アクティブ状態がその時間より長く続いた場合に、ディスプレイ・リフレッシュ・レートを最小化するようにします。 設定可能な時間は次のとおりです。 • 1 分 (Windows XP のみ) • 2 分 (Windows XP のみ) • 3 分 (Windows XP のみ) • 5 分 (Windows XP のみ) • 10 分 (Windows XP のみ) • 15 分 • 20 分 • 25 分 • 30 分 • 45 分 • なし 注：この設定は AC モードではサポートされていません。
省電力グラフィックスへの切り替え (AC)	時間を指定して、非アクティブ状態がその時間より長く続いた場合に、省電力グラフィックスに切り替えるようにします。 設定可能な時間は次のとおりです。 • 2 分 • 5 分 • 10 分 • 15 分 • 30 分 • 45 分 • 1 時間 • 2 時間 • 3 時間 • なし 注： 1. このポリシー設定を有効にするには、時間を選択しなければなりません。 2. この設定は Windows XP クライアント・コンピューターではサポートされていません。

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
省電力グラフィックスへの切り替え (DC)	時間を指定して、非アクティブ状態がその時間より長く続いた場合に、省電力グラフィックスに切り替えるようにします。 設定可能な時間は次のとおりです。 • 2 分 • 5 分 • 10 分 • 15 分 • 30 分 • 45 分 • 1 時間 • 2 時間 • 3 時間 • なし 注： 1. このポリシー設定を有効にするには、時間を選択しなければなりません。 2. この設定は Windows XP クライアント・コンピューターではサポートされていません。
モニター・オフ・タイマー (AC)	時間を指定して、非アクティブ状態がその時間より長く続いた場合に、Windows オペレーティング・システムがディスプレイの電源を切るようにします。 Windows XP クライアント・コンピューターの場合、設定可能な時間は次のとおりです。 • 1 分 • 2 分 • 3 分 • 5 分 • 10 分 • 15 分 • 20 分 • 25 分 • 30 分 • 45 分 • 1 時間 • 2 時間 • 3 時間 • 4 時間 • 5 時間 • なし

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
	Windows Vista および Windows 7 クライアント・コンピュータの場合、値は秒単位で指定します。 値を 0 秒として指定すると、『モニター・オフ・タイマー』は『なし』に設定されます。
モニター・オフ・タイマー (DC)	時間を指定して、非アクティブ状態がその時間より長く続いた場合に、Windows オペレーティング・システムがディスプレイの電源を切るようにします。 Windows XP クライアント・コンピュータの場合、設定可能な時間は次のとおりです。 • 1 分 • 2 分 • 3 分 • 5 分 • 10 分 • 15 分 • 20 分 • 25 分 • 30 分 • 45 分 • 1 時間 • 2 時間 • 3 時間 • 4 時間 • 5 時間 • なし Windows Vista および Windows 7 クライアント・コンピュータの場合、値は秒単位で指定します。 値を 0 秒として指定すると、『モニター・オフ・タイマー』は『なし』に設定されます。
HDD オフ・タイマー (AC)	時間を指定して、非アクティブ状態がその時間より長く続いた場合に、Windows オペレーティング・システムがハードディスク・ドライブの電源を切るようにします。 Windows XP クライアント・コンピュータの場合、設定可能な時間は次のとおりです。 • 3 分 • 5 分 • 10 分 • 15 分 • 20 分 • 25 分

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
	• 30 分 • 45 分 • 1 時間 • 2 時間 • 3 時間 • 4 時間 • 5 時間 • なし Windows Vista および Windows 7 クライアント・コンピューターの場合、値は秒単位で指定します。 値を 0 秒として指定すると、『HDD オフ・タイマー』は『なし』に設定されます。
HDD オフ・タイマー (DC)	時間を指定して、非アクティブ状態がその時間より長く続いた場合に、Windows オペレーティング・システムがハードディスク・ドライブの電源を切るようにします。Windows XP クライアント・コンピューターの場合、設定可能な時間は次のとおりです。 • 3 分 • 5 分 • 10 分 • 15 分 • 20 分 • 25 分 • 30 分 • 45 分 • 1 時間 • 2 時間 • 3 時間 • 4 時間 • 5 時間 • なし Windows Vista および Windows 7 クライアント・コンピューターの場合、値は秒単位で指定します。 値を 0 秒として指定すると、『HDD オフ・タイマー』は『なし』に設定されます。

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
スタンバイ・タイマー (AC)	時間を指定して、非アクティブ状態がその時間より長く続いた場合に、Windows がスリープ・モードに入るようにします。 Windows XP クライアント・コンピュータの場合、設定可能な時間は次のとおりです。 • 1 分 • 2 分 • 3 分 • 5 分 • 10 分 • 15 分 • 20 分 • 25 分 • 30 分 • 45 分 • 1 時間 • 2 時間 • 3 時間 • 4 時間 • 5 時間 • なし Windows Vista および Windows 7 クライアント・コンピュータの場合、値は秒単位で指定します。 値を 0 秒として指定すると、『スタンバイ・タイマー』は『なし』に設定されます。
スタンバイ・タイマー (DC)	時間を指定して、非アクティブ状態がその時間より長く続いた場合に、Windows がスリープ・モードに入るようにします。 Windows XP クライアント・コンピュータの場合、設定可能な時間は次のとおりです。 • 1 分 • 2 分 • 3 分 • 5 分 • 10 分 • 15 分 • 20 分 • 25 分 • 30 分 • 45 分 • 1 時間

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
	• 2 時間 • 3 時間 • 4 時間 • 5 時間 • なし Windows Vista および Windows 7 クライアント・コンピュータの場合、値は秒単位で指定します。 値を 0 秒として指定すると、『スタンバイ・タイマー』は『なし』に設定されます。
休止状態タイマー (AC)	時間を指定して、非アクティブ状態がその時間より長く続いた場合に、Windows オペレーティング・システムが休止状態モードになるようにします。 設定可能な時間は次のとおりです。 • 1 分 • 2 分 • 3 分 • 5 分 • 10 分 • 15 分 • 20 分 • 25 分 • 30 分 • 45 分 • 1 時間 • 2 時間 • 3 時間 • 4 時間 • 5 時間 • 6 時間 • なし 注：この時間は、Windows XP クライアント・コンピュータの『スタンバイ・タイマー』設定で指定した非アクティブ時間より長くする必要があります。 Windows Vista および Windows 7 クライアント・コンピュータの場合、値は秒単位で指定します。 値を 0 秒として指定すると、『休止状態タイマー』は『なし』に設定されます。

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
休止状態タイマー (DC)	時間を指定して、非アクティブ状態がその時間より長く続いた場合に、Windows オペレーティング・システムが休止状態モードになるようにします。 設定可能な時間は次のとおりです。 • 1 分 • 2 分 • 3 分 • 5 分 • 10 分 • 15 分 • 20 分 • 25 分 • 30 分 • 45 分 • 1 時間 • 2 時間 • 3 時間 • 4 時間 • 5 時間 • 6 時間 • なし 注：この時間は、Windows XP クライアント・コンピュータの『スタンバイ・タイマー』設定で指定した非アクティブ時間より長くする必要があります。 Windows Vista および Windows 7 クライアント・コンピュータの場合、値は秒単位で指定します。 値を 0 秒として指定すると、『休止状態タイマー』は『なし』に設定されます。
ハイブリッド・スリープの許可 (AC)	ハイブリッド・スリープを有効にします。 このポリシー設定を有効にし、『オン』を選択すると、システムがスリープ (スタンバイ) モードになったときに RAM (ランダム・アクセス・メモリー) の内容を保管するための hiberfil.sys というファイルが生成されます。 この設定は Windows XP クライアント・コンピュータではサポートされていません。

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
ハイブリッド・スリープの許可 (DC)	ハイブリッド・スリープを有効にします。 このポリシー設定を有効にし、『オン』を選択すると、システムがスリープ (スタンバイ) モードになったときに RAM の内容を保管する hiberfil.sys というファイルが生成されます。 この設定は Windows XP クライアント・コンピュータではサポートされていません。
ウェイク・タイマーの許可 (AC)	Windows オペレーティング・システムがスケジュールされたタスクおよびその他のプログラム用のタイマーに従い、自動的にコンピュータをスリープ・モードからウェイクアップできるかどうかを指定します。 このポリシー設定を有効にすると、例えば、システムが自動的にウェイクアップして更新をインストールするようにできます。 この設定は Windows 7 クライアント・コンピュータでのみサポートされます。
ウェイク・タイマーの許可 (DC)	Windows オペレーティング・システムがスケジュールされたタスクおよびその他のプログラム用のタイマーに従い、自動的にコンピュータをスリープ・モードからウェイクアップできるかどうかを指定します。 このポリシー設定を有効にすると、例えば、システムが自動的にウェイクアップして更新をインストールするようにできます。 この設定は Windows 7 クライアント・コンピュータではサポートされていません。
無線省電力モード (AC)	無線アダプターのパフォーマンスを指定します。 次のパフォーマンスを指定できます。 • マックス・パフォーマンス • 低省電力 • 中省電力 • 最大省電力 この設定は Windows XP クライアント・コンピュータではサポートされていません。

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
無線省電力モード (DC)	無線アダプターのパフォーマンスを指定します。 次のパフォーマンスを指定できます。 • マックス・パフォーマンス • 低省電力 • 中省電力 • 最大省電力 この設定は Windows XP クライアント・コンピュータではサポートされていません。
PCI リンク状態省電力 (AC)	PCI リンクがアイドルのときのアクティブ状態を指定します。 次の状態を指定できます。 • オフ • 適度の省電力 • 最大の省電力 この設定は Windows XP クライアント・コンピュータではサポートされていません。
PCI リンク状態省電力 (DC)	PCI リンクがアイドルのときのアクティブ状態を指定します。 次の状態を指定できます。 • オフ • 適度の省電力 • 最大の省電力 この設定は Windows XP クライアント・コンピュータではサポートされていません。
メディア共有時のマルチメディア設定 (AC)	メディア・ファイルを再生するときに Windows オペレーティング・システムが許可する処置を指定します。 次の処置を指定できます。 • コンピューターのスリープを許可 • アイドリングのスリープを禁止 • コンピューターのアウェイ・モードを許可 この設定は Windows XP クライアント・コンピュータではサポートされていません。

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
メディア共有時のマルチメディア設定 (DC)	メディア・ファイルを再生するときに Windows オペレーティング・システムが許可する処置を指定します。 次の処置を指定できます。 • コンピューターのスリープを許可 • アイドリングのスリープを禁止 • コンピューターのアウェイ・モードを許可 この設定は Windows XP クライアント・コンピューターではサポートされていません。
ビデオ再生時のマルチメディア設定 (AC)	ビデオ・コンテンツの再生時に Windows Media® Player が省電力とパフォーマンスのいずれを優先させるかを指定します。 次の値を指定できます。 • ビデオ品質の最適化 • 平衡型 • 省電力の最適化 この設定は Windows 7 クライアント・コンピューターでのみサポートされます。
ビデオ再生時のマルチメディア設定 (DC)	ビデオ・コンテンツの再生時に Windows Media Player が省電力とパフォーマンスのいずれを優先させるかを指定します。 次の値を指定できます。 • ビデオ品質の最適化 • 平衡型 • 省電力の最適化 この設定は Windows 7 クライアント・コンピューターでのみサポートされます。
適応ディスプレイ (AC)	コンピューターの非アクティブ状態が指定の時間より長く続いた場合にコンピューター・ディスプレイの電源をオフにする設定を、Windows オペレーティング・システムがどのように制御するかを管理します。 このポリシーが有効になっている状態で、プルダウン・メニューで『オン』を選択すると、コンピューター・ディスプレイをオンにするためにユーザーがキーボードやマウスを使って行う動作に応じて Windows オペレーティング・システムが設定を自動で調整します。 この設定は Windows Vista クライアント・コンピューターでのみサポートされます。

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
適応ディスプレイ (DC)	コンピューターの非アクティブ状態が指定の時間より長く続いた場合にコンピューター・ディスプレイの電源をオフにする設定を、Windows オペレーティング・システムがどのように制御するかを管理します。 このポリシーが有効になっている状態で、プルダウン・メニューで『オン』を選択すると、コンピューター・ディスプレイをオンにするためにユーザーがキーボードやマウスを使って行う動作に応じて Windows オペレーティング・システムが設定を自動で調整します。 この設定は Windows Vista クライアント・コンピューターでのみサポートされます。
検索と索引付け (AC)	検索の速度と索引付けのパフォーマンスを指定します。 次の値を指定できます。 • 電源セーバー • 平衡型 • ハイパフォーマンス この設定は Windows Vista クライアント・コンピューターでのみサポートされます。
検索と索引付け (DC)	検索の速度と索引付けのパフォーマンスを指定します。 次の値を指定できます。 • 電源セーバー • 平衡型 • ハイパフォーマンス この設定は Windows Vista クライアント・コンピューターでのみサポートされます。
USB の選択的使用停止 (AC)	コンピューターが個々のポートを使用停止にできるかどうかを指定します。 このポリシー設定を有効にし、『有効』を選択すると、コンピューターは個々のポートを使用停止にできます。 この設定は Windows XP クライアント・コンピューターではサポートされていません。
USB の選択的使用停止 (DC)	コンピューターが個々のポートを使用停止にできるかどうかを指定します。 このポリシー設定を有効にし、『有効』を選択すると、コンピューターは個々のポートを使用停止にできます。 この設定は Windows XP クライアント・コンピューターではサポートされていません。

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
スライド・ショー (AC)	デスクトップ・バックグラウンド・スライド・ショーの動作を指定します。 次の値を指定できます。 • 使用可能 • 一時停止 この設定は Windows 7 クライアント・コンピューターでのみサポートされます。
スライド・ショー (DC)	デスクトップ・バックグラウンド・スライド・ショーの動作を指定します。 次の値を指定できます。 • 使用可能 • 一時停止 この設定は Windows 7 クライアント・コンピューターでのみサポートされます。
システム冷却ポリシー (AC)	アクティブ冷却機能をサポートするシステム上での Windows の温度動作を指定します。 次の値を指定できます。 • 使用可能 • 一時停止 この設定は Windows 7 クライアント・コンピューターでのみサポートされます。
システム冷却ポリシー (DC)	アクティブ冷却機能をサポートするシステム上での Windows の温度動作を指定します。 次の値を指定できます。 • 使用可能 • 一時停止 この設定は Windows 7 クライアント・コンピューターでのみサポートされます。
スリープ・ボタン (AC)	スリープ・ボタンを押したときに Windows オペレーティング・システムによって実行される処置を指定します。 次の処置を指定できます。 • 何もしない • スリープ • 休止状態 ご使用のコンピューター・モデルに応じて、以下のいずれかのホット・キーはスリープ・ボタンとして機能します。 • Fn + F4

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
	• Fn + F1 • Fn + 4 この設定は Windows XP クライアント・コンピューターではサポートされていません。
スリープ・ボタン (DC)	スリープ・ボタンを押したときに Windows オペレーティング・システムによって実行される処置を指定します。 次の処置を指定できます。 • 何もしない • スリープ • 休止状態 ご使用のコンピューター・モデルに応じて、以下のいずれかのホット・キーはスリープ・ボタンとして機能します。 • Fn + F4 • Fn + F1 • Fn + 4 この設定は Windows XP クライアント・コンピューターではサポートされていません。
電源ボタン (AC)	コンピューターの電源ボタンを押したときに Windows オペレーティング・システムによって実行される処置を指定します。 次の処置を指定できます。 • 何もしない • スリープ • 休止状態 • シャットダウン この設定は Windows XP クライアント・コンピューターではサポートされていません。
電源ボタン (DC)	コンピューターの電源ボタンを押したときに Windows オペレーティング・システムによって実行される処置を指定します。 次の処置を指定できます。 • 何もしない • スリープ • 休止状態 • シャットダウン この設定は Windows XP クライアント・コンピューターではサポートされていません。

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
コンピューターを閉じたとき (AC)	ノートブック・コンピューターを閉じたときに Windows オペレーティング・システムによって実行される処置を指定します。 次の処置を指定できます。 • 何もしない • スリープ • 休止状態 • シャットダウン この設定は Windows XP クライアント・コンピューターではサポートされていません。
コンピューターを閉じたとき (DC)	ノートブック・コンピューターを閉じたときに Windows オペレーティング・システムによって実行される処置を指定します。 次の処置を指定できます。 • 何もしない • スリープ • 休止状態 • シャットダウン この設定は Windows XP クライアント・コンピューターではサポートされていません。
スタート・メニュー電源ボタン (AC)	『スタート』メニューの電源ボタンを選択したときに Windows オペレーティング・システムによって実行される処置を指定します。 次の処置を指定できます。 • スリープ • 休止状態 • シャットダウン この設定は Windows Vista クライアント・コンピューターでのみサポートされます。
スタート・メニュー電源ボタン (DC)	『スタート』メニューの電源ボタンを選択したときに Windows オペレーティング・システムによって実行される処置を指定します。 次の処置を指定できます。 • スリープ • 休止状態 • シャットダウン この設定は Windows Vista クライアント・コンピューターでのみサポートされます。

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
バッテリー低下アラームのレベル (AC)	バッテリー低下アラームの処置を起動する、バッテリー容量の残りの比率を指定します。 このポリシー設定を有効にした場合は、数値 (比率) を入力して、容量の低下を通知するバッテリー・レベルを設定する必要があります。 起動される処置の設定については、10 ページの表 2『電源プラン (電源設定) デプロイメント』で『バッテリー低下時の処置 (AC)』ポリシー設定を参照してください。 この設定は Windows XP クライアント・コンピュータではサポートされていません。
バッテリー低下アラームのレベル (DC)	バッテリー低下アラームの処置を起動する、バッテリー容量の残りの比率を指定します。 このポリシー設定を有効にした場合は、数値 (比率) を入力して、容量の低下を通知するバッテリー・レベルを設定する必要があります。 起動される処置の設定については、10 ページの表 2『電源プラン (電源設定) デプロイメント』で『バッテリー低下時の処置 (AC)』ポリシー設定を参照してください。 この設定は Windows XP クライアント・コンピュータではサポートされていません。
バッテリー低下アラームの通知 (AC)	バッテリー容量の残りがバッテリー低下アラームのレベルになったときに実行されるユーザーへの通知を有効にします。 このポリシー設定を有効にし、『オン』を選択すると、バッテリー容量の残りがバッテリー低下アラームのレベルになったときに Windows オペレーティング・システムによって通知が表示されます。 バッテリー低下アラームのレベルの構成については、10 ページの表 2『電源プラン (電源設定) デプロイメント』で『バッテリー低下アラームのレベル (AC)』ポリシー設定を参照してください。通知が表示されるのは、『バッテリー低下の処置』ポリシー設定が『何もしない』に設定されている場合だけです。このポリシー設定を無効にするか構成していない場合はこの設定が表示されるので、そこで設定を変更できます。 この設定は Windows XP クライアント・コンピュータではサポートされていません。

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
バッテリー低下アラームの通知 (DC)	バッテリー容量の残りがバッテリー低下アラームのレベルになったときに実行されるユーザーへの通知を有効にします。 このポリシー設定を有効にし、『オン』を選択すると、バッテリー容量の残りがバッテリー低下アラームのレベルになったときに Windows オペレーティング・システムによって通知が表示されます。 バッテリー低下アラームのレベルの構成については、10 ページの表 2『電源プラン (電源設定) デプロイメント』で『バッテリー低下アラームのレベル (AC)』ポリシー設定を参照してください。通知が表示されるのは、『バッテリー低下の処置』ポリシー設定が『何もしない』に設定されている場合だけです。このポリシー設定を無効にするか構成していない場合はこの設定が表示されるので、そこで設定を変更できます。 この設定は Windows XP クライアント・コンピュータではサポートされていません。
バッテリー低下時の処置 (AC)	バッテリー容量がバッテリー低下アラーム・レベルに達したときに Windows オペレーティング・システムが実行する処置を指定します。 次の処置を指定できます。 • 何もしない • スリープ • 休止状態 • シャットダウン この設定は Windows XP クライアント・コンピュータではサポートされていません。
バッテリー低下時の処置 (DC)	バッテリー容量がバッテリー低下アラーム・レベルに達したときに Windows オペレーティング・システムが実行する処置を指定します。 次の処置を指定できます。 • 何もしない • スリープ • 休止状態 • シャットダウン この設定は Windows XP クライアント・コンピュータではサポートされていません。

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
予約バッテリー・アラームのレベル (AC)	予約電源モードを起動するバッテリー容量の残りの比率を指定します。 このポリシー設定を有効にした場合は、数値 (比率) を入力して、予約電源通知を起動するバッテリー・レベルを設定する必要があります。 この設定は Windows 7 クライアント・コンピューターでのみサポートされます。
予約バッテリー・アラームのレベル (DC)	予約電源モードを起動するバッテリー容量の残りの比率を指定します。 このポリシー設定を有効にした場合は、数値 (比率) を入力して、予約電源通知を起動するバッテリー・レベルを設定する必要があります。 この設定は Windows 7 クライアント・コンピューターでのみサポートされます。
重大なバッテリー・アラームのレベル (AC)	重大なバッテリー・アラームの処置を起動するバッテリー容量の残りの比率を指定します。 このポリシー設定を有効にした場合は、数値 (比率) を入力して、重大な通知を起動するバッテリー・レベルを設定する必要があります。 注：値は、『バッテリー低下アラームのレベル』で指定したレベルより小さくする必要があります。 起動される処置の設定については、10 ページの表 2 『電源プラン (電源設定) デプロイメント』で『重大なバッテリー・アラーム時の処置 (AC)』ポリシー設定を参照してください。 このポリシー設定を無効にするか構成していない場合はこの設定が表示されるので、そこで設定を変更できます。 この設定は Windows XP クライアント・コンピューターではサポートされていません。
重大なバッテリー・アラームのレベル (DC)	重大なバッテリー・アラームの処置を起動するバッテリー容量の残りの比率を指定します。 このポリシー設定を有効にした場合は、数値 (比率) を入力して、重大な通知を起動するバッテリー・レベルを設定する必要があります。 注：値は、『バッテリー低下アラームのレベル』で指定したレベルより小さくする必要があります。 起動される処置の設定については、10 ページの表 2 『電源プラン (電源設定) デプロイメント』で『重大なバッテリー・アラーム時の処置 (AC)』ポリシー設定を参照してください。

表 2. 電源プラン (電源設定) デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
	このポリシー設定を無効にするか構成していない場合はこの設定が表示されるので、そこで設定を変更できます。 この設定は Windows XP クライアント・コンピューターではサポートされていません。
重大なバッテリー・アラーム時の処置 (AC)	バッテリー容量が重大なバッテリー・アラーム・レベルに達したときに Windows オペレーティング・システムが実行する処置を指定します。 次の処置を指定できます。 • 何もしない • スリープ • 休止状態 • シャットダウン この設定は Windows XP クライアント・コンピューターではサポートされていません。
重大なバッテリー・アラーム時の処置 (DC)	バッテリー容量が重大なバッテリー・アラーム・レベルに達したときに Windows オペレーティング・システムが実行する処置を指定します。 次の処置を指定できます。 • 何もしない • スリープ • 休止状態 • シャットダウン この設定は Windows XP クライアント・コンピューターではサポートされていません。

共通省電力設定

『Global Power Setting』ポリシーを使用して、共通省電力設定を構成できます。

『Global Power Setting』ポリシーを構成するには、次のようにします。

- Windows XP クライアント・コンピューターの場合 (ADM および ADMX ファイル)
『コンピュータの構成』で、『管理用テンプレート』 → 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』 → 『Power Manager』 → 『共通省電力設定』の順にクリックします。
- Windows Vista または Windows 7 クライアント・コンピューターの場合 (ADM ファイル)
『コンピュータの構成』で、『管理用テンプレート』 → 『従来の管理用テンプレート』 → 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』 → 『Vista/7 用 Power Manager』 → 『共通省電力設定』の順にクリックします。
- Windows Vista または Windows 7 クライアント・コンピューターの場合 (ADMX ファイル)
『コンピュータの構成』で、『管理用テンプレート』 → 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』 → 『Vista/7 用 Power Manager』 → 『共通省電力設定』の順にクリックします。

次の表に、各ポリシーに関する詳細情報を示します。

表 3. 共通省電力設定

ポリシー設定	説明
電力の状態が変化したらビープ音を鳴らす	コンピューターが次のいずれかの状態になったときにビープ音を鳴らすことを指定します。 - コンピューターがスタンバイ状態になったとき。 - スタンバイ状態後にコンピューターが操作を再開したとき。 - コンピューターが休止状態になったとき。 - 休止状態後にコンピューターが操作を再開したとき。 - AC 電源アダプターをコンピューターに接続するかコンピューターから外したとき。 このポリシー設定を有効にすると、コンピューターがビープ音を鳴らします。
スタンバイから再開したときにパスワードを要求する	システムがスリープから再開したときにユーザーにパスワードを要求するプロンプトを出すかどうかを指定します。 このポリシー設定を有効にすると、システムがスリープから再開したときにユーザーにパスワードを要求するプロンプトが出されます。 この設定がサポートされるのは、管理者アカウントのみです。Windows Vista および Windows 7 オペレーティング・システムの場合、この設定が効力を持つのは、ユーザー・アカウント制御 (User Account Control) (UAC) 機能が無効になっているときのみです。
休止状態を有効にする	コンピューターが休止状態に入れるようにするかどうかを指定します。 この設定は Windows XP クライアント・コンピューターでのみサポートされます。
Always On USB	コンピューターが休止状態または電源オフのときに、Always On USB コネクタが USB 電源を供給するかどうかを指定します。 『Always On USB を有効にする』オプションと『コンピューターがオフの場合でも有効にする』オプションを有効にすると、コンピューターが休止状態または電源オフになっている場合でもデバイスを充電することができます。サポートされるデバイスは、iPod® または iPhone® デジタル・デバイス、BlackBerry® スマートフォン、またはその他の自動的に検出されるデバイスです。 Always On USB コネクタは次の機能をサポートします。 - デバイスを自動的に検出する - コンピューターの使用中にデバイスを素早く充電する - AC 電源アダプターが接続されている状態でコンピューターが休止状態または電源オフのときに、デバイスを充電する

表 3. 共通省電力設定 (続き)

ポリシー設定	説明
	注： • Always On USB コネクタは一部のモデルでのみ使用できます。 • デバイスを検出または充電できない場合は、Always On USB コネクタに再接続します。 • ドックの標準 USB コネクタと USB コネクタは、Always On USB コネクタの機能をサポートしません。
ビデオ再生電源プランを自動的に適用する	WinDVD® でブルーレイを再生中に電源プランを自動的に変更するかどうかを指定します。 このポリシー設定を有効にすると、WinDVD でブルーレイを再生中に電源プランが『ビデオ再生』に切り替わります。
30 日間スタンバイ	30 日間スタンバイ機能を有効にするかどうかを指定します。 30 日間スタンバイ機能を有効にすることにより、バッテリーの駆動時間を長くすることができます。 構成オプションは次のとおりです。 • 構成しない • 有効 • 無効 このポリシー設定を有効にした場合、Power Manager ではコンピューターとコンピューターの構成に従ってコンピューターの電源状態を自動的に変更します。 このポリシーを有効化した後、クライアント・コンピューターを再起動して設定を有効にします。この設定は、Power Manager が数か月間コンピューターのスリープと再開の操作を追跡して要約した後で有効になります。 • コンピューターがディープ・スリープ状態をサポートしている場合は、指定されたスリープ状態の期間が経過すると、ディープ・スリープ状態になります。 • コンピューターがディープ・スリープ状態をサポートしていない場合は、指定されたスリープ状態の期間が経過すると、休止状態になります。 ハードディスク・ドライブが暗号化されているか保護されている場合、コンピューターは、指定されたスリープ状態の期間が経過しても、スリープ状態から休止状態になりません。この場合は、警告メッセージまたはパスワード認証メッセージが表示される場合があります。 次の状況下では、コンピューターはディープ・スリープ状態または休止状態になりません。

表 3. 共通省電力設定 (続き)

ポリシー設定	説明
	『Always On USB』オプションが有効で、iPod デジタル・デバイス、iPhone デジタル・デバイス、または BlackBerry スマートフォン・デバイスが接続されている。 - 認定されていないバッテリーが取り付けられている。 - AC 電源アダプターが接続されている。 注： - DVD 再生、ビデオ録画、タスク・スケジューラー・ソフトウェアなどのスリープ解除タイマーが使用されているときは優先され、スリープ状態の期間が変更されることがあります。 - WinDVD を使用している場合は、スリープ状態の期間が変更されることがあります。 - コンピューターをディープ・スリープ状態から再開するには、スリープ状態から再開するよりも時間がかかります。 - この設定は Windows 7 クライアント・コンピューターでのみサポートされます。
インスタント・インターネット	インスタント・インターネット機能を有効にするかどうかを指定します。 構成オプションは次のとおりです。 - 構成しない - 有効 - 無効 このポリシー設定を有効にすると、コンピューターはスタンバイ状態から復帰するとすぐにインターネットへの接続を試行します。 この設定は Windows 7 クライアント・コンピューターでのみサポートされます。
ハイブリッド・パワー・ブースト	ハイブリッド・パワー・ブースト機能を有効にするかどうかを指定します。 構成オプションは次のとおりです。 - 構成しない - 有効 - 無効 このポリシー設定を有効にすると、コンピューターはバッテリーと AC 電源アダプターを同時に使用して高パフォーマンスを実現します。 このポリシー設定を有効にした場合は、電源状況が『充電中』または『操作なし』の場合でも、バッテリー・ゲージが減少する場合があります。このような場合、

表 3. 共通省電力設定 (続き)

ポリシー設定	説明
	『フル充電に必要な時間』の値が常に正確とは限りません。
Dynamic Brightness Control	次の特定の状況で液晶ディスプレイの輝度を自動的に下げるかどうかを指定します。 • コンピューターを開始またはシャットダウンするとき • システムをログオフするとき • ユーザーを切り替えるとき • コンピューターが画面をロックしているとき • コンピューターがスクリーン・セーバーを表示しているとき
ドッキング解除時の処置	コンピューターのドッキングを解除したときに Windows オペレーティング・システムによって実行される処置を指定します。 次の処置を指定できます。 • 処置なし • スタンバイ • 休止状態
CD-ROM の速度	CD-ROM ドライブの速度を指定します。 次の速度を指定できます。 • ハイパフォーマンス • 標準 • サイレント
省電力 CPU	指定した間隔内にシステム・アクティビティーがなかったときに Windows オペレーティング・システムによって実行される処置を指定します。 次の処置を指定できます。 • 自動 • 無効 『自動』を選択すると、指定した間隔内にシステム・アクティビティーがなかったときに、パワー・マネージメント機能が有効になり、マイクロプロセッサのクロックが自動的に停止します。 『無効』を選択すると、バッテリー駆動時間は短くなります。

表 3. 共通省電力設定 (続き)

ポリシー設定	説明
省電力 PCI バス	指定した間隔内にシステム・アクティビティーがなかったときに Windows オペレーティング・システムによって実行される処置を指定します。 次の処置を指定できます。 • 自動 • 無効 『自動』を選択すると、アクティビティーがないときに PCI バス・クロックが停止します。 『無効』を選択すると、バッテリー駆動時間は短くなります。
スリープ・ボタン	スリープ・ボタンを押したときに Windows オペレーティング・システムによって実行される処置を指定します。 次の処置を指定できます。 • 何もしない • スリープ • 休止状態 ご使用のコンピューター・モデルに応じて、以下のいずれかのホット・キーはスリープ・ボタンとして機能します。 • Fn + F4 • Fn + F1 • Fn + 4
電源ボタン	電源ボタンを押したときに Windows オペレーティング・システムによって実行される処置を指定します。 次の処置を指定できます。 • 何もしない • スリープ • 休止状態 • シャットダウン
コンピューターを閉じたとき	ノートブック・コンピューターを閉じたときに Windows オペレーティング・システムによって実行される処置を指定します。 次の処置を指定できます。 • 何もしない • スリープ • 休止状態 • シャットダウン

表 3. 共通省電力設定 (続き)

ポリシー設定	説明
スタート・メニュー電源ボタン	『スタート』メニューの電源ボタンを選択したときに Windows オペレーティング・システムによって実行される処置を指定します。 次の処置を指定できます。 • スリープ • 休止状態 • シャットダウン この設定は Windows Vista クライアント・コンピューターでのみサポートされます。
バッテリー低下アラームの有効化	コンピューターがバッテリー低下アラームを有効にするかどうかを指定します。 この設定は Windows XP クライアント・コンピューターでのみサポートされます。
バッテリー低下アラームのレベル	バッテリー低下アラームの処置を起動する、バッテリー容量の残りの比率を指定します。 このポリシー設定を有効にした場合は、数値 (比率) を入力して、容量の低下を通知するバッテリー・レベルを設定する必要があります。 起動される処置の設定については、34 ページの表 3『共通省電力設定』で『バッテリー低下時のアラーム通知』ポリシー設定を参照してください。
バッテリー低下アラームの通知	バッテリー容量の残りがバッテリー低下アラームのレベルになったときに実行されるユーザーへの通知を有効にします。 Windows XP クライアント・コンピューターの場合、次のような通知があります。 • 処置なし • メッセージ • ビープ音 • メッセージとビープ音 Windows Vista および Windows 7 クライアント・コンピューターの場合、次のような通知があります。 • オフ • オン

表 3. 共通省電力設定 (続き)

ポリシー設定	説明
バッテリー低下の処置	バッテリー容量がバッテリー低下アラーム・レベルに達したときに Windows オペレーティング・システムが実行する処置を指定します。 Windows XP クライアント・コンピューターでは次の処置を指定できます。 • 処置なし • スタンバイ • 休止状態 • シャットダウン • バッテリー寿命の最大化 Windows Vista および Windows 7 クライアント・コンピューターでは次の処置を指定できます。 • 何もしない • スリープ • 休止状態 • シャットダウン • バッテリー寿命の最大化
重大なバッテリー・アラームの有効化	コンピューターが重大なバッテリー・アラームを有効にするかどうかを指定します。 この設定は Windows XP クライアント・コンピューターでのみサポートされます。
重大なバッテリー・アラームのレベル	重大なバッテリー・アラームの処置を起動するバッテリー容量の残りの比率を指定します。 このポリシー設定を有効にした場合は、数値 (比率) を入力して、重大な通知を起動するバッテリー・レベルを設定する必要があります。 注：値は、『バッテリー低下アラームのレベル』で指定したレベルより小さくする必要があります。 起動される処置の設定については、34 ページの表 3『共通省電力設定』の『重大なバッテリー・アラームの処置』ポリシー設定を参照してください。
重大なバッテリー・アラームの通知	バッテリー容量の残りが重大なバッテリー・アラームのレベルになったときのユーザーへの通知を有効にします。 次のような通知があります。 • 処置なし • メッセージ • ビープ音 • メッセージとビープ音

表 3. 共通省電力設定 (続き)

ポリシー設定	説明
	注：この設定がサポートされるのは、Windows XP クライアント・コンピューターの管理者アカウントのみです。
重大なバッテリー・アラーム時の処置	バッテリー容量が重大なバッテリー・アラーム・レベルに達したときに Windows オペレーティング・システムが実行する処置を指定します。 Windows XP クライアント・コンピューターでは次の処置を指定できます。 • 処置なし • スタンバイ • 休止状態 • シャットダウン Windows Vista および Windows 7 クライアント・コンピューターでは次の処置を指定できます。 • 何もしない • スリープ • 休止状態 • シャットダウン
外付けモニター輝度	外付けモニターの輝度レベルを 100 個のレベルで指定します。 このポリシー設定を有効にする場合、目的の輝度レベルを選択する必要があります。高い輝度レベルを選択すると、外付けモニターの輝度は向上します。 この設定は、クライアント・コンピューターと外付けモニターの両方が Display Data Channel/Command Interface (DDC/CI) プロトコルに対応している場合にのみ、サポートされます。 注： 1. 輝度レベルの範囲は 0 から 100 です。高い輝度レベルを選択すると、外付けモニターの輝度は向上します。このポリシー設定は、輝度レベルが 100 を超えるモニターには対応していません。 2. この設定は Windows XP クライアント・コンピューターではサポートされていません。
外付けモニター輝度の暗転	時間と輝度レベルを指定します。非アクティブ状態がその時間より長く続いた場合に、クライアント・コンピューターが外付けモニターの輝度と輝度レベルを自動的に下げるようにします。指定した時間の後に『外付けモニター輝度の暗転』設定が有効になり、そのとき、ここで指定した輝度レベルになります。 非アクティブの時間は、秒単位で指定できます。 この設定は、クライアント・コンピューターと外付けモニターの両方が Display Data Channel/Command Interface

表 3. 共通省電力設定 (続き)

ポリシー設定	説明
	(DDC/CI) プロトコルに対応している場合にのみ、サポートされます。 注： 1. 輝度レベルの範囲は 0 から 100 です。高い輝度レベルを選択すると、モニターの輝度は向上します。このポリシー設定は、輝度レベルが 100 を超えるモニターには対応していません。 2. この設定は Windows XP クライアント・コンピュータではサポートされていません。

バッテリー保守

『バッテリー保守』ポリシーを使用すると、バッテリー保守設定を構成できます。

『バッテリー保守』ポリシーを構成するには、次のようにします。

- Windows XP クライアント・コンピュータの場合 (ADM および ADMX ファイル)
『コンピュータの構成』で、『管理用テンプレート』 → 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』 → 『Power Manager』 → 『バッテリー保守』の順にクリックします。
- Windows Vista または Windows 7 クライアント・コンピュータの場合 (ADM ファイル)
『コンピュータの構成』で、『管理用テンプレート』 → 『従来の管理用テンプレート』 → 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』 → 『Vista/7 用 Power Manager』 → 『バッテリー保守』の順にクリックします。
- Windows Vista または Windows 7 クライアント・コンピュータの場合 (ADMX ファイル)
『コンピュータの構成』で、『管理用テンプレート』 → 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』 → 『Vista/7 用 Power Manager』 → 『バッテリー保守』の順にクリックします。

次の表に、各ポリシー設定に関する詳細情報を示します。

表 4. バッテリー保守

ポリシー設定	説明
バッテリー充電のしきい値	バッテリー充電のしきい値を指定します。 このポリシーは、標準バッテリーにのみ適用されます。 充電のしきい値の可能な値は、次のとおりです。 • 常にフル充電 (96% 以下で開始、100% で停止) • バッテリー寿命を最適化 (自動的に変更) 注：このオプションを選択すると、『しきい値が変更されたときに通知する』設定が選択できるようになります。 • カスタム 注：このオプションを選択する場合は、『次のときに充電を停止』スピン・ボックスの値は、『次の値以下になったら充電開始』スピン・ボックスの値よりも少なくとも 4% は大きい値に設定する必要があります。

表 4. バッテリー保守 (続き)

ポリシー設定	説明
	ます。それ以外の場合は、『常にフル充電 (96% 以下で開始、100% で停止)』設定をクライアント・コンピュータにデプロイします。
バッテリー充電モード	バッテリー充電モードを指定します。 このポリシーは、デュアル・モードのバッテリーにのみ適用されます。 指定できる充電モードは次のとおりです。 - 常にフル充電 (96% 以下で開始、100% で停止) - バッテリー寿命を最適化 (自動的に変更) 注：このオプションを選択すると、『しきい値が変更されたときに通知する』設定が選択できるようになります。 - カスタム 注：このオプションを選択する場合は、『次のときに充電を停止』スピン・ボックスの値は、『次の値以下になったら充電開始』スピン・ボックスの値よりも少なくとも 4% は大きい値に設定する必要があります。それ以外の場合は、『常にフル充電 (96% 以下で開始、100% で停止)』設定をクライアント・コンピュータにデプロイします。
バッテリー・ファームウェアの更新の自動検査	バッテリー・ファームウェアの更新を自動検査し、検査後、『最終チェック日』を更新します。 構成オプションは次のとおりです。 - 構成しない - 有効 注：このオプションを選択した場合は、『自動モードの有効化』を選択してこのポリシー設定を有効にする必要があります。 - 無効 この設定は Windows 7 クライアント・コンピュータでのみサポートされます。

電源スケジュール・デプロイメント

『電源スケジュール・デプロイメント』ポリシーを使用すると、電源スケジュール・デプロイメント設定を構成できます。

『電源スケジュール・デプロイメント』ポリシーを構成するには、次のようにします。

- Windows XP クライアント・コンピュータの場合 (ADM および ADMX ファイル)
 - 『ユーザーの構成』で、『管理用テンプレート』 → 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』 → 『Power Manager』 → 『バッテリー電源スケジュール・デプロイメント』の順にクリックします。
- Windows Vista または Windows 7 クライアント・コンピュータの場合 (ADM ファイル)

『ユーザーの構成』で、『管理用テンプレート』 → 『従来の管理用テンプレート』 → 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』 → 『Vista/7 用 Power Manager』 → 『電源スケジュール・デプロイメント』の順にクリックします。

- Windows Vista または Windows 7 クライアント・コンピュータの場合 (ADMX ファイル)

『ユーザーの構成』で、『管理用テンプレート』 → 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』 → 『Vista/7 用 Power Manager』 → 『電源スケジュール・デプロイメント』の順にクリックします。

次の表に、各ポリシーに関する詳細情報を示します。

表 5. 電源スケジュール・デプロイメント

ポリシー設定	説明
新規作成	クライアント・コンピュータの『電源スケジュール』タブでユーザーが電源スケジュールを作成することを許可するかどうかを指定します。 このポリシー設定を有効にすると、ユーザーはクライアント・コンピュータ上で電源スケジュールを作成できるようになります。 このポリシー設定を無効にすると、『新規作成』ボタンが使用不可となり、ユーザーは電源スケジュールを作成できなくなります。
編集	クライアント・コンピュータの『電源スケジュール』タブでユーザーが電源スケジュールを編集することを許可するかどうかを指定します。 このポリシー設定を有効にすると、ユーザーはクライアント・コンピュータ上で電源スケジュールを編集できるようになります。 このポリシー設定を無効にすると、『編集』ボタンが使用不可となり、選択した電源スケジュールを編集できなくなります。 注：電源スケジュールの編集をクライアント・コンピュータのユーザーに許可するには、その電源スケジュールの『構成可能』ポリシー設定も有効にする必要があります。46 ページの表 6 『Power Agenda*』で、『構成可能』ポリシー設定を参照してください。
削除	クライアント・コンピュータの『電源スケジュール』タブでユーザーが電源スケジュールを編集することを許可するかどうかを指定します。 このポリシー設定を有効にすると、ユーザーはクライアント・コンピュータ上で電源スケジュールを編集できるようになります。 クライアント・コンピュータの『電源スケジュール』タブでユーザーが電源スケジュールを削除することを許可するかどうかを指定します。 このポリシー設定を有効にすると、ユーザーはクライアント・コンピュータ上で電源スケジュールを削除できるようになります。

表 5. 電源スケジュール・デプロイメント (続き)

ポリシー設定	説明
	このポリシー設定を無効にすると、『削除』ボタンが使用不可となり、選択した電源スケジュールを削除できなくなります。 このポリシー設定を無効にすると、『編集』ボタンが使用不可となり、選択した電源スケジュールを編集できなくなります。 注：電源スケジュールの削除をクライアント・コンピュータのユーザーに許可するには、その電源スケジュールの『構成可能』ポリシー設定も有効にする必要があります。46 ページの表 6『Power Agenda*』で、『構成可能』ポリシー設定を参照してください。
ポリシー・スタンプ	電源スケジュールがデプロイまたは更新される必要があるかどうかを示すポリシー・スタンプを指定します。 このポリシー設定を有効にすると、更新したデプロイメントが以前のデプロイメントと異なる場合に、更新したデプロイメントがクライアント・コンピュータにデプロイされ、以前のデプロイメントが上書きされます。 注： 1. 初めて電源スケジュールをデプロイする場合は、ポリシー・スタンプを設定する必要があります。 2. デプロイメントごとに以前のデプロイメントとは異なるポリシー・スタンプを設定し、使用する必要があります。たとえば、ポリシー・スタンプとして現在の日付と時刻を設定します。 3. このポリシー設定を無効にするか構成しない場合、更新したデプロイメントはクライアント・コンピュータにデプロイされず、以前のデプロイメントは上書きされません。 4. 電源スケジュールをデプロイすると、エンド・ユーザーが作成した電源スケジュールはすべて、上書きされます。 5. 電源スケジュール・ポリシーをデプロイするとき、コンピュータでは、他のポリシー設定と競合するかどうかについてのチェックは自動的には行われません。競合が存在する場合、デプロイメント・プロセスは警告なしに停止されることがあります。このため、電源スケジュールのデプロイメント・プロセスが完了したかどうかを確認する必要があります。

電源スケジュールの各デプロイでは、最大 10 個の電源スケジュールを指定できます。

1 から 10 の電源スケジュールを構成するには、次のようにします。

- Windows XP クライアント・コンピュータの場合 (ADM および ADMX ファイル)
『**ユーザーの構成**』で、『**管理用テンプレート**』 → 『**Lenovo ThinkVantage コンポーネント**』 → 『**Power Manager**』 → 『**電源スケジュール・デプロイメント**』 → 『**Power Agenda***』の順にクリックします。
- Windows Vista または Windows 7 クライアント・コンピュータの場合 (ADM ファイル)

『ユーザーの構成』で、『管理用テンプレート』 → 『従来の管理用テンプレート』 → 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』 → 『Vista/7 用 Power Manager』 → 『電源スケジュール・デプロイメント』 → 『Power Agenda*』の順にクリックします。

- Windows Vista または Windows 7 クライアント・コンピューターの場合 (ADMX ファイル)

『ユーザーの構成』で、『管理用テンプレート』 → 『Lenovo ThinkVantage コンポーネント』 → 『Vista/7 用 Power Manager』 → 『電源スケジュール・デプロイメント』 → 『Power Agenda*』の順にクリックします。

注：* は 1 から 10 の数字を表します。

クライアント・コンピューターに特定の電源スケジュールをデプロイするには、次の表に示す電源スケジュール設定を構成します。

表 6. Power Agenda*

ポリシー設定	説明
実行	この電源スケジュールを実行するかどうかを指定します。 このポリシー設定を有効にするか構成しないときは、『電源スケジュール』タブでその電源スケジュールのチェック・ボックスを選択します。これにより、この電源スケジュールはクライアント・コンピューターで実行されるようになります。 このポリシー設定を無効にするときは、その電源スケジュールのチェック・ボックスをクリアします。これにより、この電源スケジュールはクライアント・コンピューターで実行されなくなります。
構成可能	クライアント・コンピューターでユーザーがこの電源スケジュールを編集または削除できるかどうかを指定します。 このポリシー設定を有効にすると、クライアント・コンピューターでユーザーは選択した電源スケジュールを編集または削除することができます。 このポリシー設定を無効にするか構成しない場合、クライアント・コンピューターでユーザーは選択した電源スケジュールを編集または削除することができません。 注：電源スケジュールの編集または削除をクライアント・コンピューターのユーザーに許可するには、その電源スケジュールの『編集』または『削除』ポリシー設定も有効にする必要があります。44 ページの表 5『電源スケジュール・デプロイメント』で、『編集』ポリシー設定と『削除』ポリシー設定を参照してください。
Name (名前)	クライアント・コンピューターにデプロイする電源スケジュールの名前を指定します。 このポリシー設定を有効にすると、その電源スケジュールに対して固有の名前を入力することも、ブランクのままにすることもできます。 注：名前は、1 バイト文字の場合は最大 32 文字、2 バイト文字の場合は最大 16 文字にしてください。

表 6. Power Agenda* (続き)

ポリシー設定	説明
処置	その電源スケジュールが実行する処置を指定します。 次の処置を指定できます。 - スリープ・タイマーの変更 (Windows Vista/7 の場合) またはスリープ (Windows XP の場合) - ハイバネーション・タイマーの変更 (Windows Vista/7 の場合) またはハイバネーション (Windows XP の場合) - モニター・オフ・タイマーの変更 - シャットダウン - 電源プランへの切り替え (Windows Vista/7 の場合) または電源設定への切り替え (Windows XP の場合) - モニター輝度の設定 - ピーク電力スケジューラー 注： - このポリシー設定は必須です。このポリシー設定を有効にするには、処置を 1 つ選択する必要があります。 - 処置はそれぞれ、以下の対応するポリシー設定と関係があります。処置に関連付けられているポリシー設定が未定義または無効の場合は、デフォルト値が適用されるか、または電源スケジュールはデプロイされません。 - すべての処置 『名前』ポリシー設定 『実行』ポリシー設定 『構成』ポリシー設定 『曜日』ポリシー設定 『頻度』ポリシー設定 『通知』ポリシー設定 - 電源プランへの切り替え (Windows Vista/7 の場合) または電源設定への切り替え (Windows XP の場合) 『電源プラン』ポリシー設定 (Windows Vista/7 の場合) または『電源設定』ポリシー設定 (Windows XP の場合) 『時刻』ポリシー設定 - スリープ・タイマーの変更、ハイバネーション・タイマーの変更、モニター・オフ・タイマーの変更 (Windows Vista/7 の場合) またはスリープ、ハイバネーション、モニター・オフ・タイマーの変更 (Windows XP の場合) 『アイドル・タイマー』ポリシー設定 『時刻』ポリシー設定

表 6. Power Agenda* (続き)

ポリシー設定	説明
	• シャットダウン – 『時刻』ポリシー設定 • モニター輝度の設定 – 『ThinkPad LCD 輝度』ポリシー設定 – 『外付けモニター輝度』ポリシー設定 (Windows Vista/7 のみ) – 『時刻』ポリシー設定 • ピーク電力スケジューラー – 『ピーク電力スケジューラー - 有効期間』ポリシー設定 – 『ピーク電力スケジューラー - 時刻』ポリシー設定
アイドル・タイマー	時間を指定して、非アクティブ状態がその時間より長く続いた場合に、コンピューターがスリープ状態または休止状態に入るようにするか、またはコンピューターの電源をオフにするようにします。 このポリシー設定を有効にする場合は、秒単位で値を設定する必要があります。
スマート・シャットダウン	何らかのアプリケーションによってシャットダウン・プロセスがブロックされた場合にコンピューターを休止状態にするかどうかを指定します。 このポリシー設定を有効にしてチェック・ボックスにチェック・マークを付けると、コンピューターのシャットダウンがブロックされたときにコンピューターは休止状態になります。 このポリシー設定を有効にしてチェック・ボックスのチェックを外すと、コンピューターはシャットダウンします。 このポリシー設定を構成しないと、デフォルト設定が有効になります。
電源プラン (電源設定)	電源スケジュールの切り替え後の電源プラン (電源設定) の名前を指定します。 『処置』ポリシー設定を『電源プランへの切り替え』 (Windows Vista/7 の場合) または『電源設定への切り替え』 (Windows XP の場合) に設定する場合、このポリシー設定を有効にするとともに電源プラン (電源設定) の名前を入力する必要があります。46 ページの表 6 『Power Agenda*』で、『処置』ポリシー設定を参照してください。 クライアント・コンピューター内にその電源プラン (電源設定) 名が存在しない場合、電源スケジュールはその電源プラン (電源設定) に切り替わりません。 注：

表 6. Power Agenda* (続き)

ポリシー設定	説明
	1. 電源プラン(電源設定)の名前は、1 バイト文字の場合は最大 32 文字、2 バイト文字の場合は最大 16 文字にしてください。 2. このポリシー設定を無効にするか構成しない場合、『処置』ポリシー設定を『電源プランへの切り替え』(Windows Vista/7 の場合)または『電源設定への切り替え』(Windows XP の場合)に設定すると、クライアント・コンピュータでユーザーはその電源スケジュールを使用できません。46 ページの表 6『Power Agenda*』で、『処置』ポリシー設定を参照してください。
ThinkPad LCD 輝度 16	クライアント・コンピュータのモニターの輝度レベルを 16 個のレベルで指定します (0 から 15)。 『処置』ポリシー設定を『モニター輝度の変更』に設定する場合、このポリシー設定を有効にするとともに輝度レベルを入力する必要があります。46 ページの表 6『Power Agenda*』で、『処置』ポリシー設定を参照してください。 このポリシー設定を無効にするか構成しない場合に、『処置』ポリシー設定を『モニター輝度の変更』に設定すると、クライアント・コンピュータでユーザーはその電源スケジュールを使用できません。46 ページの表 6『Power Agenda*』で、『処置』ポリシー設定を参照してください。 注：輝度レベルの範囲は 0 から 15 です。高い輝度レベルを選択すると、モニターの輝度は向上します。このポリシー設定は、輝度レベルが 15 を超えるモニターには対応していません。
ThinkPad LCD 輝度 8	クライアント・コンピュータのモニターの輝度レベルを 8 個のレベルで指定します (0 から 7)。 『処置』ポリシー設定を『モニター輝度の変更』に設定する場合、このポリシー設定を有効にするとともに輝度レベルを入力する必要があります。46 ページの表 6『Power Agenda*』で、『処置』ポリシー設定を参照してください。 このポリシー設定を無効にするか構成しない場合に、『処置』ポリシー設定を『モニター輝度の変更』に設定すると、クライアント・コンピュータでユーザーはその電源スケジュールを使用できません。46 ページの表 6『Power Agenda*』で、『処置』ポリシー設定を参照してください。 注：輝度レベルの範囲は 0 から 7 です。高い輝度レベルを選択すると、モニターの輝度は向上します。このポリシー設定は、輝度レベルが 7 を超えるモニターには対応していません。

表 6. Power Agenda* (続き)

ポリシー設定	説明
外付けモニター輝度	外付けモニターの輝度レベルを指定します (0 から 100)。 『処置』ポリシー設定を『モニター輝度の変更』に設定する場合、このポリシー設定を有効にするとともに輝度レベルを入力する必要があります。46 ページの表 6 『Power Agenda*』で、『処置』ポリシー設定を参照してください。 このポリシー設定を無効にするか構成しない場合に、『処置』ポリシー設定を『モニター輝度の変更』に設定すると、クライアント・コンピュータでユーザーはその電源スケジュールを使用できません。46 ページの表 6 『Power Agenda*』で、『処置』ポリシー設定を参照してください。 注： 1. 輝度レベルの範囲は 0 から 100 です。高い輝度レベルを選択すると、外付けモニターの輝度は向上します。このポリシー設定は、輝度レベルが 100 を超えるモニターには対応していません。 2. この設定は Windows XP クライアント・コンピュータではサポートされていません。
頻度	電源スケジュール実行の時間間隔を指定します。 頻度に指定できる値は、次のとおりです。 • 毎日 • 毎週 このポリシー設定を無効にするか構成しない場合、クライアント・コンピュータでユーザーはその電源スケジュールを使用できません。 注：このポリシー設定は必須です。このポリシー設定を有効にするには、頻度を 1 つ選択する必要があります。
ピーク電力スケジューラー - 有効期間	ピーク電力スケジューラーの有効期間を指定します。 『処置』ポリシー設定を『ピーク電力スケジューラー』に設定する場合は、このポリシー設定を有効にする必要があります。 ピーク電力スケジューラーの設定は、このポリシー設定で指定された期間のみ、有効になります。 注：無効な期間を設定すると、Power Manager によって自動的に調整されます。

表 6. Power Agenda* (続き)

ポリシー設定	説明
時刻	電源スケジュールを実行/終了する開始時刻と終了時刻(時および分)を指定します。 このポリシー設定を有効にするには、特定の時間を設定する必要があります。 このポリシー設定を無効にするか構成しない場合に、『処置』ポリシー設定を『ピーク電力スケジューラー』に設定すると、クライアント・コンピュータでユーザーはその電源スケジュールを使用できません。46 ページの表 6『Power Agenda*』で、『処置』ポリシー設定を参照してください。 注： 1. 『処置』ポリシー設定を『シャットダウン』に設定する場合は、開始時刻のみ設定します。 2. 『処置』ポリシー設定を『ピーク電力スケジューラー』に設定すると、電源スケジュールでは、この『時刻』ポリシー設定ではなく、『ピーク電力スケジューラー - 時刻』ポリシー設定が使用されます。
ピーク電力スケジューラー - 時刻	ピーク電力スケジューラーの設定が有効になるときを指定します。 『処置』ポリシー設定を『ピーク電力スケジューラー』に設定する場合は、このポリシー設定を有効にする必要があります。 ピーク電力スケジューラーの設定は、このポリシー設定で指定された期間のみ、有効になります。
曜日	電源スケジュールを毎週実行する曜日を指定します。 このポリシー設定を有効にするには、曜日を選択する必要があります。 このポリシー設定を無効にするか構成しない場合に、『頻度』ポリシー設定を『毎週』に設定すると、クライアント・コンピュータでユーザーはその電源スケジュールを使用できません。46 ページの表 6『Power Agenda*』で、『頻度』ポリシー設定を参照してください。
通知	電源スケジュールを実行する前にユーザーに通知を行うかどうかを指定します。 このポリシー設定を有効にした場合、クライアント・コンピュータで電源スケジュールを実行する前に通知を行う時間を選択できます。通知時間は 1 分から 60 分の範囲です。 このポリシー設定を無効にするか構成しない場合、クライアント・コンピュータで電源スケジュールを実行する前に、ユーザーに対する通知が行われません。

表 6. Power Agenda* (続き)

ポリシー設定	説明
	注：このポリシー設定を有効にしても、通知チェック・ボックスをクリアすると、クライアント・コンピュータで電源スケジュールを実行する前に、ユーザーに対する通知が行われません。
ピーク電力スケジューラーを無効にする	ピーク電力スケジューラーの設定を無効にする状況を指定します。 『バッテリー電源の残量が指定されたレベルより少なくなったとき』を有効にする場合は、パーセンテージ単位で値を指定する必要があります。バッテリーの残量パーセンテージが、ここで指定した値よりも小さくなると、ピーク電力スケジューラーの設定が無効になります。 『バッテリー使用を監視して自動的に実行する』を有効にすると、ピーク電力スケジューラーの設定はバッテリー使用に応じて自動的に無効になります。

第 4 章 電源プラン・デプロイ機能による電源プランのデプロイ

電源プラン・デプロイ機能により、IT 管理者は ADM ファイルまたは ADMX ファイルの代わりに、ImportPowerPlan コマンド・ラインと ControlPowerPlan コマンド・ラインを使って、電源プランをデプロイすることができます。

注：電源プラン・デプロイ機能は、Windows Vista および Windows 7 クライアント・コンピューターの Power Manager 6.60.1 以降のバージョンでサポートされています。

電源プラン・デプロイの概要

ここでは、電源プランをエクスポートした後に電源プランをデプロイして管理する方法の一般的な手順について説明します。

注：順を追って電源プランをエクスポート、デプロイ、管理する方法については、57 ページの『電源プラン・デプロイのサンプル』を参照してください。

電源プランのエクスポート

電源プランをエクスポートするには、次のようにします。

1. Power Manager プログラムを開始します。『Power Manager』ウィンドウが開きます。
2. ベーシック・モードからアドバンス・モードに切り替えます。
3. デプロイする電源プランを選択して、『エクスポート』をクリックします。『電源プランのエクスポート』ウィンドウが開きます。
4. 『プランの編集』をクリックして、電源プランの名前と設定を編集します。
5. 『保存』をクリックしてファイル・パスを指定し、INI ファイルに電源プランを保存します。電源プランがエクスポートされます。

電源プランのデプロイおよび管理

電源プランをデプロイして管理するには、次のようにします。

1. エクスポートされた電源プランの INI ファイルを、クライアント・コンピューターがサーバー上でアクセス可能な共有フォルダーに移動します。
2. ImportPowerPlan コマンド・ラインと ControlPowerPlan コマンド・ラインなどのログオン・スクリプトを作成します。次に、スクリプトをサーバー上の指定されたファイル・パスに移動します。電源プランはクライアント・コンピューターにデプロイされ、ログオン・スクリプトに従って管理されます。

注：

- a. ログオン・スクリプトについて詳しくは、56 ページの『サンプル・スクリプト』を参照してください。
- b. サーバー上の指定されたファイル・パスについては、57 ページの『電源プラン・デプロイのサンプル』を参照してください。

次の表は、ログオン・スクリプトの ImportPowerPlan コマンド・ラインの各ポリシー設定に関する詳細情報を示しています。

表 7. ImportPowerPlan コマンド・ラインのポリシー設定

ポリシー設定	説明	前提条件
-p	エクスポートされた INI ファイルのファイル・パスを指定します。この設定は、次のシナリオのいずれかで無視されます。 『クライアントによる新しい電源プランの作成を許可しない』ポリシー設定がローカル・グループ・ポリシー・エディターで有効になります。 -InhibitCreate ポリシー設定は、ControlPowerPlan コマンド・ラインで有効になります。	必須
-u	ユーザーがクライアント・コンピュータにログインするたびに電源プランが自動的に更新されないように、数値を設定します。数値の推奨スタイルは、『yyyymmdd』（『20130312』など）です。数値を前の数値より大きくリセットした場合にのみ、ユーザーがログインするたびに電源プランは自動的に更新されます。 注： - すべての数値はレジストリ・エディターに保存されます。 - 数値を 0 にすると、ユーザーがログインするたびに電源プランは自動的に更新されます。	オプション
-a	アクティブになるインポートされた電源プランを設定します。この設定は、次のシナリオのいずれかで無視されます。 - ポリシー設定の『クライアントによる電源プランの切り替えを許可しない』または『アクティブ電源プランを選択する』は、ローカル・グループ・ポリシー・エディターで有効になります。 -InhibitSwitch ポリシー設定は、ControlPowerPlan コマンド・ラインで有効になります。	オプション

次の表は、ログオン・スクリプトの ControlPowerPlan コマンド・ラインの各ポリシー設定に関する詳細情報を示しています。

表 8. ControlPowerPlan コマンド・ラインのポリシー設定

ポリシー設定	説明	前提条件
-InhibitSwitch	ユーザーによる電源プランの切り替えを許可するかどうかを指定します。 このポリシー設定を有効にすると、『削除』ボタンが薄く表示され、ユーザーは選択した電源スケジュールを削除できなくなります。 『クライアントによる電源プランの切り替えを許可しない』ポリシー設定がローカル・グループ・ポリシー・エディターで有効になっている場合、この設定は無視されます。	オプション
-InhibitCreate	ユーザーによる新しい電源プランの作成を許可するかどうかを指定します。 このポリシー設定を有効にすると、『作成』ボタンが薄く表示され、ユーザーは新しい電源スケジュールを作成できなくなります。 『クライアントによる新しい電源プランの作成を許可しない』ポリシー設定がローカル・グループ・ポリシー・エディターで有効になっている場合、この設定は無視されます。	オプション
-SetActivePlan	電源プラン名を指定することで、アクティブになる電源プランを設定します。 この設定は、次のシナリオのいずれかで無視されます。 • ポリシー設定の『クライアントによる電源プランの切り替えを許可しない』または『アクティブ電源プランを選択する』は、ローカル・グループ・ポリシー・エディターで有効になります。 • 『クライアントによる特定の電源プランの選択を許可しない』ポリシー設定はローカル・グループ・ポリシー・エディターで有効になり、アクティブになるように設定する電源プランはポリシー設定で指定されます。 • -InhibitSwitch ポリシー設定は、ControlPowerPlan コマンド・ラインで有効になります。 注：-InhibitSwitch と -SetActivePowerPlan という2つのポリシー設定が有効になっている場合は、指定された電源プランがま	オプション

表 8. ControlPowerPlan コマンド・ラインのポリシー設定 (続き)

ポリシー設定	説明	前提条件
	ずアクティブになり、ユーザーは電源プランを切り替えることができません。	

サンプル・スクリプト

ここでは、ログオン・スクリプトの ImportPowerPlan コマンドラインと ControlPowerPlan コマンド・ラインの使用方法を示すサンプル・スクリプトについて説明します。

PowerPlanDeployment.bat

```
@ECHO OFF
SETLOCAL

IF .%PROCESSOR_ARCHITECTURE%.==.x86.(
    SET PMDLLName=PWMTR32V.DLL
    SET PMREG_INFO="HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Lenovo\PWRMGRV\InstallInfo"
    SET PMREG_PATH="HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Lenovo\PWRMGRV\Path"
) ELSE (
    SET PMDLLName=PWMTR64V.DLL
    SET PMREG_INFO="HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Lenovo\PWRMGRV\InstallInfo"
    SET PMREG_PATH="HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Lenovo\PWRMGRV\Path"
)

FOR /F "tokens=1,2*" %%i in ('reg query %PMREG_INFO% /v "PWRMGRVersion"') DO (
    IF "%%i"=="PWRMGRVersion" (
        SET PM_Version=%%k
    )
)

FOR /F "tokens=1-3 delims=." %%i in ('echo %PM_Version%') DO (
    SET PM_MAJORVER=%%i
    SET PM_MINORVER=%%j
)

FOR /F "tokens=1,2*" %%i in ('reg query %PMREG_PATH% /ve') DO (
    SET PM_INSPATH=%%k
)

IF %PM_MAJORVER% NEQ 8 (
    IF %PM_MAJORVER% NEQ 6 goto END
    IF %PM_MINORVER% LSS 60 goto END
)

SET PMDLLPath=%PM_INSPATH%\%PMDLLName%
SET PMDLLPath=%PM_INSPATH%\%PMDLLName%

IF NOT EXIST "%PMDLLPath%" GOTO END

SET SharedFile=\\win-chim5mob2rb\Share\ppd_plan.ini
SET ImportFile=%TMP%\ppd_plan.ini
SET ImpResultFile=%TMP%\ppd_imp_result.txt
SET CtlResultFile=%TMP%\ppd_ctl_result.txt

COPY "%SharedFile%" "%TMP%"

RUNDLL32.EXE "%PMDLLPath%",ImportPowerPlan -p "%ImportFile%" -u 20130601 -a > "%ImpResultFile%"

FOR /F "tokens=1,2 delims=:" %%1 IN (%ImpResultFile%) DO (
```

```

@ECHO %%1 : %%2
IF .%%2==.Error.SET IMPERROR=TRUE
)
IF .%IMPERROR%.==.TRUE. goto ERROR_IMP

RUNDLL32.EXE "%PMDLLPath%",ControlPowerPlan -InhibitCreate Enable -InhibitSwitch Enable > "%CtlResultFile%"

FOR /F "tokens=1,2 delims=:" %%1 IN (%CtlResultFile%) DO (
    @ECHO %%1 : %%2
    IF .%%2==.Error.SET CTLERROR=TRUE
)
IF .%CTLERROR%.==.TRUE. goto ERROR_CTL

goto DELEND

:ERROR_IMP
goto END

:ERRPR_CTL
goto END

:DELEND
DEL /F %ResultFile%

:END
ENDLOCAL

```

電源プラン・デプロイのサンプル

ここでは、電源プランのデプロイ方法の手順を順を追って説明します。

電源プランを段階的にデプロイするには、次のようにします。

1. IT 管理者のコンピューターで、次のようにします。
 - a. 電源プランをエクスポートし、PPD_PLAN.ini ファイルとして保存します。53 ページの『電源プランのエクスポート』を参照してください。
 - b. ログオン・スクリプトを作成し、PowerPlanDeployment.bat ファイルとして保存します。56 ページの『サンプル・スクリプト』を参照してください。
2. サーバーで、次のようにします。
 - a. Windows サーバーで Active Directory ドメインを設定します。
 - b. サーバー上にフォルダーを作成し、共有するようにフォルダーを設定します。
 - c. IT 管理者コンピューターに作成した PPD_PLAN.ini ファイルをサーバー上の共有フォルダーに移動します。
 - d. 『スタート』 → 『管理ツール』 → 『Active Directory ユーザーとコンピューター』の順にクリックします。『Active Directory ユーザーとコンピュータ』ウィンドウが開きます。
 - e. 『Pwr01』という名前のユーザーと『PwrGroup』という名前のグループを作成します。次に、Pwr01 ユーザーを PwrGroup グループに追加します。
 - f. 『スタート』 → 『管理ツール』 → 『サーバー マネージャー』の順にクリックします。『サーバー マネージャー』ウィンドウが開きます。
 - g. 『機能』で、『グループ ポリシーの管理』 → 『Forest: YOURDOMAIN』 → 『ドメイン』の順にクリックします。次に、サブ項目の『YOURDOMAIN』を右クリックして、『このドメインに GPO を作成し、このコンテナにリンクする』を選択します。『新しい GPO』ウィンドウが開きます。
 - h. 『名前』フィールドに『PwrGPO』と入力して、『OK』をクリックします。新しい項目である『PwrGPO』が『YOURDOMAIN』の下に作成されます。

- i. 『PwrGPO』をクリックします。グループ・ポリシー・オブジェクト (GPO) へのリンクを選択していることを確認するメッセージ・ボックスが表示されます。『OK』をクリックすると、『PwrGPO』ウィンドウが開きます。
 - j. 『範囲』タブで、『セキュリティ フィルター処理』エリアの『追加』をクリックします。
 - k. 『選択するオブジェクト名を入力してください』フィールドに『PwrGroup』と入力し、『OK』をクリックします。新しい項目である『PwrGroup』が『セキュリティ フィルター処理』エリアに作成されます。
 - l. 『セキュリティ フィルター処理』エリアの『Authenticated Users』を選択し、『削除』をクリックします。項目を削除するかどうかを確認するメッセージ・ボックスが表示されます。『OK』をクリックする。『Authenticated Users』項目が削除されます。
 - m. 『PwrGPO』を右クリックし、『編集』を選択します。『グループ・ポリシー管理エディター』ウィンドウが開きます。
 - n. 『ユーザーの構成』で、『ポリシー』→『Windows の設定』→『スクリプトの選択 (ログオン/ログオフ)』の順にクリックします。その後、『ログオン』をダブルクリックします。『ログオン・プロパティ』ウィンドウが開きます。
 - o. 『スクリプト』タブで『ファイルの表示』をクリックします。『ログオン』ウィンドウが開きます。
 - p. IT 管理者コンピューターに作成した PowerPlanDeployment.bat ファイルを、『ログオン』ウィンドウの最上部領域に表示されているファイル・パスまで移動します。その後、『ログオン』ウィンドウを閉じます。
 - q. 『スクリプト』タブで『追加』をクリックします。『スクリプトの追加』ウィンドウが開きます。
 - r. 『参照』をクリックします。『参照』ウィンドウが開き、PowerPlanDeployment.bat ファイルがファイル・パスに表示されます。
 - s. PowerPlanDeployment.bat ファイルを選択し、『開く』をクリックします。『参照』ウィンドウが閉じ、PowerPlanDeployment.bat が『スクリプト名』フィールドに表示されます。
 - t. 『OK』をクリックする。『スクリプトの追加』ウィンドウが閉じ、新しい項目である PowerPlanDeployment.bat が『PwrGPO 用ログオン・スクリプト』エリアに表示されます。
 - u. 『OK』をクリックして、ログオン・プロパティを保存します。
3. クライアント・コンピューターでは、次のようにします。
 - a. クライアント・コンピューターで Active Directory ドメインに参加します。
 - b. 『Pwr01』というユーザー名でクライアント・コンピューターにログインします。電源プランが自動的にデプロイされます。

電源プラン・デプロイ機能に関するヒント

ここでは、電源プラン・デプロイ機能に関するいくつかのヒントについて説明します。

- 次のコードが電源プラン・デプロイ機能で電源プランをデプロイしたときに表示される場合があります。

出力コード	説明
RC_Success	電源プランが正常にインポートまたは更新されました。
RC_NonParams	パラメーターが指定されていません。
RC_InvalidParams	コールバック・オプションが不十分であるか、パラメーター・フォーマットが正しくありません。
RC_InvalidIniFile	INI ファイルが存在しないか、-p ポリシー設定によって指定されたフォーマットが正しくありません。

出力コード	説明
RC_HavingSameName	同じ名前を持つ電源プランが既に存在しています。
RC_HavingMaxPowerPlans	電源プランの数が最大数に達しています。
RC_CannotImport	ローカル・グループ・ポリシー・エディターまたは ControlPowerPlan コマンド・ラインのポリシー設定のために、電源プランを作成することができません。
RC_CannotUpdate	-u ポリシー設定に指定された新しい数値が前の数値よりも小さいため、電源プランを自動的に更新することができません。
RC_CannotSetActive	ローカル・グループ・ポリシー・エディターまたは ControlPowerPlan コマンド・ラインのポリシー設定のために、電源プランを切り替えることができません。
RC_Unknown	このエラーは定義されていません。

- **ImportPowerPlan** コマンド・ラインと **ControlPowerPlan** コマンド・ラインは、Power Manager 6.60.1 より前のバージョンに実装することはできません。以前のバージョンで2つのコマンドを実行すると、エラー・メッセージがクライアント・コンピューターに表示される場合があります。エラーはコンピューターに悪影響を及ぼしません。このエラーを回避するには、56 ページの『サンプル・スクリプト』に従ってシステム環境を確認します。

付録 A Windows XP クライアント・コンピューター上の管理者以外のグループまたはユーザー用の電源設定のデプロイ

Windows XP クライアント・コンピューター上の管理者以外のグループまたはユーザーには、電源設定を変更する権限がありません。これは、設計上の Windows XP オペレーティング・システムの機能です。管理者以外のグループまたはユーザー用の Windows XP クライアント・コンピューターに Power Manager プランを正常にデプロイするために、IT 管理者は以下を実行して、ドメイン・サーバーを構成する必要があります。

1. ドメイン・サーバー上で、『スタート』→『実行』の順にクリックし、『名前』ボックスに『dsa.msc』と入力します。『Active Directory ユーザーとコンピュータ』ウィンドウが開きます。
2. ドメイン・コンテナを右クリックし、『プロパティ』を選択します。『プロパティ』ウィンドウが開きます。
3. 『グループ ポリシー』タブをクリックし、『新規』ボタンをクリックして、グループ・ポリシー・オブジェクトを作成します。
4. グループ・ポリシー・オブジェクトを『Power Configuration Policy』という名前に変更して、Enter キーを押します。
5. 『編集』をクリックします。『グループ ポリシー オブジェクト エディタ』が開きます。
6. 以下のキーのセキュリティ権限を、
MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Controls Folder\PowerCfg
以下を実行することにより、設定します。
 - a. 『コンピュータの構成』で、『Windows の設定』→『セキュリティの設定』の順にクリックし、レジストリを右クリックして、キーの追加を選択します。『レジストリ キーの選択』ウィンドウが開きます。
 - b. 以下のキーを『選択されたキー』ボックスに入力します。
MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Controls Folder\PowerCfg
 - c. 『OK』をクリックする。『データベース セキュリティ』ウィンドウが開きます。
 - d. 『セキュリティ』タブで、権限を付与する対象の、管理者以外のグループまたはユーザーを選択し(複数可)、そのグループまたはユーザーにフルコントロール権限を割り当てて、『適用』をクリックします。
 - e. 『詳細設定』をクリックします。『詳細』ウィンドウが開きます。
 - f. 『アクセス許可』タブでグループまたはユーザーを選択します(複数可)。次に、『親から継承可能なアクセス許可をこのオブジェクトと子オブジェクトすべてに伝達できるようにし、それらをここで明示的に定義されているものに含める』オプションを選択し、『OK』をクリックします。『オブジェクトの追加』ウィンドウが開きます。
 - g. 『継承可能なアクセス許可をすべてのサブキーに伝達する』オプションを選択して、『OK』をクリックします。
7. 以下のキーのセキュリティ権限を、
USERS\DEFAULT\Control Panel\PowerCfg
以下を実行することにより、設定します。
 - a. 『コンピュータの構成』で、『Windows の設定』→『セキュリティの設定』の順にクリックし、レジストリを右クリックして、キーの追加を選択します。『レジストリ キーの選択』ウィンドウが開きます。
 - b. 以下のキーを『選択されたキー』ボックスに入力します。
USERS\DEFAULT\Control Panel\PowerCfg
 - c. 『OK』をクリックする。『データベース セキュリティ』ウィンドウが開きます。

- d. 『セキュリティ』タブで、権限を付与する対象の、管理者以外のグループまたはユーザーを選択し(複数可)、そのグループまたはユーザーにフルコントロール権限を割り当てて、『適用』をクリックします。
 - e. 『詳細設定』をクリックします。『詳細』ウィンドウが開きます。
 - f. 『アクセス許可』タブでグループまたはユーザーを選択します(複数可)。次に、『親から継承可能なアクセス許可をこのオブジェクトと子オブジェクトすべてに伝達できるようにし、それらをここで明示的に定義されているものに含める』オプションを選択し、『OK』をクリックします。『オブジェクトの追加』ウィンドウが開きます。
 - g. 『継承可能なアクセス許可をすべてのサブキーに伝達する』オプションを選択して、『OK』をクリックします。
8. 『Active Directory ユーザーとコンピュータ』ウィンドウで、以下の2つのグループ・ポリシー・オブジェクトが生成されていることを確認します。
- MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Controls Folder¥PowerCfg
 - USERS¥.DEFAULT¥Control Panel¥PowerCfg

注：

1. Windows XP クライアント・コンピューター上の管理者以外のグループまたはユーザーは、以下のレジストリー・サブキーの書き込み権限を持っている必要があります。
 - HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Controls Folder¥PowerCfg
 - HKEY_USERS¥.DEFAULT¥Control Panel¥PowerCfg
2. Windows XP オペレーティング・システムにおける電源設定用の powercfg.exe ユーティリティーの使用法についてさらに詳しくは、次の Web サイトを参照してください。
<http://support.microsoft.com/default.aspx/kb/915160>

構成が完了すると、Windows XP クライアント・コンピューターの管理者以外のグループまたはユーザーに権限が与えられ、Power Manager 電源設定のデプロイを適用できるようになります。

付録 B 特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、レノボ・ジャパンの営業担当員にお尋ねください。本書で Lenovo 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その Lenovo 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、Lenovo の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、Lenovo 以外の製品、プログラム、またはサービスの動作・運用に関する評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

Lenovo は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

*Lenovo (United States), Inc.
1009 Think Place - Building One
Morrisville, NC 27560
U.S.A.
Attention: Lenovo Director of Licensing*

Lenovo およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。Lenovo は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書で説明される製品は、誤動作により人的な傷害または死亡を招く可能性のある移植またはその他の生命維持アプリケーションで使用されることを意図していません。本書に記載される情報が、Lenovo 製品仕様または保証に影響を与える、またはこれらを変更することはありません。本書におけるいかなる記述も、Lenovo あるいは第三者の知的所有権に基づく明示または黙示の使用許諾と補償を意味するものではありません。本書に記載されている情報はすべて特定の環境で得られたものであり、例として提示されるものです。他の稼働環境では、結果が異なる場合があります。

Lenovo は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本書において Lenovo 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この Lenovo 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

商標

以下は、Lenovo Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Access Connections
Lenovo
ThinkPad
ThinkVantage

Microsoft、Active Directory、Windows、Windows Media、および Windows Vista は、Microsoft グループの商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

ThinkVantage®